

平成 30 年度 社会福祉法人寿泉会 しおりの里特別養護老人ホーム 事業実績報告書

1. 平成 30 年度の事業活動について

事業所の運営方針に対して継続的に取り組み、各職員が提案・実施・振り返りを実践する年度でありました。

入居者様及びご家族様、職員間での情報共有・連携を深めることにより、昨年度よりお互いに表現力を養うことができたと感じています。

2. サービス提供について

(1) 機能訓練（リハビリテーション）について

入居者様の心身機能・希望に沿ったリハビリプログラムの作成について、ケース会議や個々の入居者様の状況確認を実施しました。

入居者様が日常生活を送りやすい環境調整については、ユニット職員からの依頼により、随時相談を承り、提案を行い実施に結び付けました。

入居者様の心身機能評価、リハビリ計画への反映、ご家族様への情報伝達については定期的に評価・計画への反映を行い、ご家族様へリハビリ計画書により情報伝達を実施しました。

(2) 日中活動（アクティビティサービス）について

各ユニットで季節感を味わうための設営や食に関する行事、ご家族様参加型行事を実施しました。

入居者様の身体状況に合わせて季節を感じるための外出等の援助も実施しましたが、個々の入居者様の意向に添える行事の立案が課題として残りました。

(3) 認知症ケアについて

入居者様の『できること・わかること』に着目しました。

入居者様の変化に気付くことの視点は養われましたが、今後も早期発見・早期対応が必要だと思いました。

(4) 口腔・栄養管理について

① 栄養状態の改善

・低栄養（BMI18.5kg/m²未満）の改善

2名は改善傾向、他の方は維持・低下がみられました。

・褥瘡がある方への栄養補助食品の検討、褥瘡委員会との協力、連携

褥瘡発生時は看護職員と相談のうえ、発生直後から栄養強化食品を提供し、適宜確認を実施しました。

② 便秘の改善・対策

・腸内環境の整備（オリゴ糖の付加）

特に目立った効果は見られませんでした。腸内環境整備のため継続していきます。

・水分補給の促し

入居者様への声かけや介助によって水分補給していただいています。

・食物繊維の強化

いまだに目標値には達していない状況です。

③食の楽しみの提供

- ・ユニット職員と協力し、食に関する行事の開催
食べるだけでなく、入居者様に手を動かして作っていただけるような企画を実施しました。
来年度は他職種と連携し、行事の幅を広げていきたいと考えています。
- ・誕生日という大切な日を、入居者様に喜んでいただくためのお祝いカード作成
お祝いカードと併せてお赤飯を提供しました。
入居者様も喜んでいただき、誕生日当日にお祝いカードがあることにより、職員もお祝いの言葉を伝えることができ良いと思いました。
- ・季節や行事のポスター・ランチョンマットの作成
ポスターがあることで入居者様との会話もできて良いと思いました。

(5) 感染症対策について

- ・委員会を毎月開催、季節に応じた対応を検討して実施しました。
- ・委員会主催にて、吐物処理、手洗い研修を行い感染症予防および蔓延防止に努めました。
- ・今年度は、感染症（インフルエンザ）が1ユニットに数名感染しましたが、他ユニットへのまん延を防止することができました。

(6) 事故抑止について

事故等が起こった際、インシデント・アクシデントレポートの徹底を図り、各ユニット会議やサービス担当者会議にて周知や対応策について話し合う機会をつくりました。

3. 行事の実施について

(1) 施設全体行事

夏祭り、しおりまつり、鉄板焼き、餅つきを実施しました。
いつもとは違う景色や他者との交流の機会となり、好評でした。

(2) ユニット行事

季節に応じた食に関する行事をメインに実施しました。
また、ご家族様参加型行事を2回行い、ご家族様との交流の場を確保いたしました。

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

会議名	開催頻度	内容
運営会議	毎月開催	事業所の運営に関する内容
ユニット・ケース会議	毎月開催	個別ケア、職員の業務等に関する内容
介護L・UL会議	毎月開催	行事割り振り、情報共有、業務改善に関する内容
看護師会議	毎月開催	個別のケース、業務に関する内容
地域密着型運営推進会議	年6回開催	地域連携推進に関する内容

(2) 研修

研修名	開催回数	内容
感染症予防研修	2回	吐物処理、手洗いに関する内容（各1回）

(3) 委員会（※施設系事業所及び通所事業所で委員会を設置している事業所）

委員会名	開催回数
身体拘束・権利擁護委員会	12回（毎月）
衛生管理・感染症対策委員会	12回（毎月）
事故防止委員会	12回（毎月）

5. コストに関する取り組みについて

- ・必要物品を検討するにあたり、各職員が費用対効果を意識し、適宜購入の必要性の精査に努めました。
- ・福祉用具のメンテナンスを定期的に行うことで、福祉備品の破損の減少に努めました。
- ・不要照明の消灯、エアコンのON/OFFに努めました。
- ・また、職員の時間外勤務については必要人員の把握、適正配置を常に考慮しながら、削減に努めていきます。

6. 事業の稼働について

- ・目標稼働率：98.0%に対し、年間累計稼働率：96.9%でした。
- ・目標は未達成でしたが、昨年度と比較して0.7%ポイント稼働がアップしております。
- ・引き続き、入院期間を最小限にするため、日常の状態観察（早期発見・早期対応）の強化、医療機関や家族との連携に努めていきます。

7. 利用実績

(1) 利用者実績

区分	しおりの里特別養護老人ホーム	延利用者数計 平均稼働率
延利用者数	7174	7174
年間稼働率	96.9	96.9

(2) 入退所状況（再入所を含む。）

しおりの里特別養護老人ホーム					
区分	入所	退所			
		死亡	入院	在宅	他施設
男	1	0	2	0	0
女	7	3	3	0	0
計	8	3	5	0	0
		8			

(3) 年齢別利用者数 (平成30年度末現在)

区分		64歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	合計	平均年齢(歳)
特別養護老人ホーム しおりの里	男	0	0	0	0	1	0	0	1	84
	女	0	0	0	2	2	7	8	19	89.8
	計	0	0	0	2	3	7	8	20	89.6
	%	0	0	0	10	15	35	40	100	—

(4) 在籍期間別利用者数 (平成30年度末現在)

区分		14日以内	15日～1月	1～3月	3～6月	6月～1年	1～2年	2年以上	合計
特別養護老人ホーム しおりの里	男	0	0	1	0	0	0	0	1
	女	0	0	1	2	3	3	10	19
	計	0	0	2	2	3	3	10	20
	%	0	0	10	10	15	15	50	100

(5) 要介護度別利用者数 (平成30年度末現在)

区分	しおりの里特別養護老人ホーム	計
要介護1	0	0
要介護2	0	0
要介護3	0	0
要介護4	9	9
要介護5	11	11
計	20	20
平均介護度	4.6	4.6

(6) 認知度別利用者数 (平成30年度末現在)

区分	しおりの里特別養護老人ホーム	計
Ⅲ未満	0	0
Ⅲ以上	20	20
計	20	20

(7) 利用者の食事形態 (平成30年度末現在)

ア) 主食形態

区分	普通	軟飯	全粥	ミキサー	特別療養食	経管栄養	計
しおりの里 特別養護老人ホーム	0	1	11	6	0	2	20
計	0	1	11	5	0	2	20

イ) 副食形態

区分	普通	きざみ	超きざみ	ミキサー	特別療養食	経管栄養	計
しおりの里 特別養護老人ホーム	0	5	6	5	0	2	20
計	0	5	6	5	0	2	20

(8) 利用者の生活状況 (平成 30 年度末現在)

ア) 食事

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
しおりの里 特別養護老人ホーム	6	6	6	18
計	6	6	6	18

イ) 移動

区分	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
しおりの里 特別養護老人ホーム	0	0	3	17	20
計	0	0	3	17	20

ウ) 入浴

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
しおりの里 特別養護老人ホーム	0	10	10	20
計	0	10	10	20

エ) 着脱

区分	自力	一部介助	全介助	計
しおりの里 特別養護老人ホーム	0	10	10	20
計	0	10	10	20

オ) 排泄

区分	自力	一部介助	全介助	計
しおりの里 特別養護老人ホーム	0	7	13	20
計	0	7	13	20

カ) おむつ使用

区分	常時使用	夜間使用	計
しおりの里特別養護老人ホーム	6	16	22
計	6	16	22

(9) 平成 30 年度実施行事

行事实施月及び行事名等	
4月	春の行楽弁当
5月	母の日のハーバリウム作り
6月	ハンドマッサージ&生け花
7月	地域特養夏祭り *家族参加型
8月	サマーリース作り
9月	しおりまつり 2018
10月	鉄板焼き(お好み焼き、焼きそば)、秋の行楽弁当
11月	焼き芋、写真フレーム作り *家族参加型
12月	忘年会(鍋)
1月	新年会(餅つき)
2月	インフルエンザ流行の為、中止
3月	生け花作り
備考	陶芸教室(4、6、9、11、1、3月)

平成 30 年度 社会福祉法人寿泉会 しおりの里広域型特別養護老人ホーム 事業実績報告書

1. 平成 30 年度の事業活動について

事業所の運営方針に対して継続的に取り組み、各職員が提案・実施・振り返りを実践する年度でありました。

入居者様及びご家族様、職員間での情報共有・連携を深めることにより、昨年度よりお互いに表現力を培うことができたと感じています。

2. サービス提供について

(1) 機能訓練（リハビリテーション）について

入居者様の心身機能・希望に沿ったリハビリプログラムの作成について、ケース会議や個々の入居者様の確認を実施しました。

日常生活を送りやすい環境調整については、ユニット職員からの依頼により随時相談を行うことや、提案をさせていただくことにより実施しました。

入居者様の心身機能評価、リハビリ計画への反映、ご家族様への情報伝達については定期的に評価・計画への反映を行い、ご家族様へリハビリ計画書により情報伝達を実施しました。

(2) 日中活動（アクティビティサービス）について

各ユニットで季節感を味わうための準備・手順や、食に関する行事を実施しました。

入居者様の身体状況に合わせて季節を感じるための外出等の援助も実施しましたが、入居者様個々の意向に添える行事の立案が課題として残りました。

(3) 認知症ケアについて

入居者様の『できること・わかること』に着目しました。

入居者様の変化に気付くことの視点は養われましたが、今後も早期発見・対応が必要だと思っています。

(4) 口腔・栄養管理について

① 栄養状態の改善

・低栄養（BMI18.5kg/m²未満）の改善

2名は改善傾向、他の方は維持・低下がみられました。

・褥瘡がある方への栄養補助食品の検討、褥瘡委員会との協力、連携

褥瘡発生時は看護職員と相談の上、発生直後から栄養強化食品を提供し、適宜確認を実施しました。

② 便秘の改善・対策

・腸内環境の整備（オリゴ糖の付加）

特に目立った効果は見られませんでした。腸内環境整備のため継続していきます。

・水分補給の促し

入居者様への声かけや介助によって水分補給していただいております。

・食物繊維の強化

未だに目標値には達していない状況です。

③食の楽しみの提供

- ・ユニット職員と協力し、食に関する行事の開催
食べるだけでなく、入居者様に手を動かして作っていただけるよう企画し、実施しました。
来年度は他職種と連携し、行事の幅を広げていきたいと思えます。
- ・誕生日という大切な日を、入居者様に喜んでいただくためのお祝いカード作成
お祝いカードと併せてお赤飯を提供しました。
入居者様も喜んでいただき、誕生日当日にお祝いカードがあることにより、職員もお祝いの言葉を伝えることができ良いと思えました。
- ・季節や行事のポスター・ランチョンマットの作成
ポスターがあることで入居者様との会話もできて良いと思えました。

(5) 感染症対策について

- ・委員会を毎月開催、季節に応じた対応を検討して実施しました。
- ・委員会主催にて、吐物処理、手洗い研修を行い感染症予防およびまん延防止に努めました。
- ・今年度は、感染症（インフルエンザ）が1ユニットに数名感染しましたが、他ユニットへのまん延を防止することが出来ました。

(6) 事故抑止について

事故等が起こった際に、インシデント・アクシデントレポートの徹底を図り、各ユニット会議やサービス担当者会議にて周知や対応策について話し合う機会をつくりました。

3. 行事の実施について

(1) 施設全体行事

- ・花見やラーメン屋体験、バーベキュー、しおりまつり、餅つきを実施しました。
- ・いつもとは違う景色や他者との交流の機会となり、好評でした。

(2) ユニット行事

- ・季節に応じた食に関する行事をメインに実施しました。

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

会議名	開催頻度	内容
運営会議	毎月開催	事業所の運営に関する内容
ユニット・ケース会議	毎月開催	個別ケア、職員の業務等に関する内容
介護リーダー ・ユニットリーダー会議	毎月開催	行事割り振り、情報共有、業務改善に関する内容
看護師会議	毎月開催	個別のケース、業務に関する内容

(2) 研修

研修名	開催回数	内容
感染症予防研修	6回	吐物処理、手洗いに関する内容（各1回）

(3) 委員会（※施設系事業所及び通所事業所で委員会を設置している事業所）

委員会名	開催回数
身体拘束・権利擁護委員会	12回（毎月）
安全衛生委員会	12回（毎月）
事故防止委員会	12回（毎月）
褥瘡予防委員会	12回（毎月）

5. コストに関する取り組みについて

- ・必要物品を検討するにあたり、各職員が費用対効果を意識し、適宜、購入の必要性の精査に努めました。
 - ・福祉用具のメンテナンスを定期的に行うことで、福祉備品の破損の減少に努めました。
 - ・不要照明の消灯、エアコンのON/OFFに努めました。
- また、職員の時間外勤務については必要人員の把握、適正配置を常に考慮しながら、削減に努めていきます。

6. 事業の稼働について

目標稼働率：95.0%に対し、年間累計稼働率：95.3%でした。

引き続き、入院期間を最小限にするため、日常の状態観察（早期発見・早期対応）の強化、医療機関や家族との連携に努めていきます。

7. 利用実績

(1) 利用者実績

区分	しおりの里広域型特別養護老人ホーム	延利用者数計 平均稼働率
延利用者数	17,382	17,382
年間稼働率	95.3%	95.3%

(2) 入退所状況（再入所を含む。）

しおりの里広域型特別養護老人ホーム					
区分	入所	退所			
		死亡	入院	在宅	他施設
男	3	1	3	0	0
女	12	6	5	0	0
計	15	7	8	0	0
		15			

（次頁に続く）

(3) 年齢別利用者数 (平成 30 年度末現在)

区 分		64歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	合計	平均年齢 (歳)
特別養護老人ホーム しおりの里広域型	男	0	0	0	0	0	2	5	7	90.2
	女	0	1	1	8	6	12	15	43	86.6
	計	0	1	1	8	6	14	20	50	87.2
	%	0	2	2	16	12	28	40	100	—

(4) 在籍期間別利用者数 (平成 30 年度末現在)

区 分		14日以内	15日～1月	1～3月	3～6月	6月～1年	1～2年	2年以上	合計
特別養護老人ホーム しおりの里広域型	男	0	0	0	1	1	1	4	7
	女	1	0	2	3	2	8	27	43
	計	1	0	2	4	3	9	31	50
	%	2	0	4	8	6	18	62	100

(5) 要介護度別利用者数 (平成 30 年度末現在)

区 分	しおりの里広域型特別養護老人ホーム	計
要介護 1	0	0
要介護 2	0	0
要介護 3	6	6
要介護 4	20	20
要介護 5	24	24
計	50	50
平均介護度	4.34	4.34

(6) 認知度別利用者数 (平成 30 年度末現在)

区 分	しおりの里広域型特別養護老人ホーム	計
Ⅲ未満	8	8
Ⅲ以上	42	42
計	50	50

(7) 利用者の食事形態 (平成 30 年度末現在)

ア) 主食形態

区 分	普通	軟飯	全粥	ミキサー	特別療養食	経管栄養	計
しおりの里広域型 特別養護老人ホーム	13	10	16	10	0	1	50
計	13	10	16	10	0	1	50

(次頁に続く)

イ) 副食形態

区分	普通	きざみ	超きざみ	ミキサー	特別療養食	経管栄養	計
しおりの里広域型 特別養護老人ホーム	14	13	11	11	0	1	50
計	14	13	11	11	0	1	50

(8) 利用者の生活状況 (平成 30 年度末現在)

ア) 食事

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
しおりの里広域型 特別養護老人ホーム	20	8	22	50
計	20	8	22	50

イ) 移動

区分	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
しおりの里広域型 特別養護老人ホーム	3	4	15	28	50
計	3	4	15	28	50

ウ) 入浴

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
しおりの里広域型 特別養護老人ホーム	1	12	37	50
計	1	12	37	50

エ) 着脱

区分	自力	一部介助	全介助	計
しおりの里広域型 特別養護老人ホーム	2	14	34	50
計	2	14	34	50

オ) 排泄

区分	自力	一部介助	全介助	計
しおりの里広域型 特別養護老人ホーム	6	19	25	50
計	6	19	25	50

カ) おむつ使用

区分	常時使用	夜間使用	計
しおりの里広域型 特別養護老人ホーム	16	4	20
計	16	4	20

(次頁に続く)

(9) 平成 30 年度実施行事

行事実施月及び行事名等	
4 月	花見、買い物ツアー、
5 月	ユニット行事（鯛めしと鯛汁、音楽会、空豆のポタージュ作り）
6 月	ユニット行事（フルーツバイキング）
7 月	ユニット行事（誕生日外食、ちゃんこ鍋パーティー、すいか割り）ラーメン屋大将
8 月	ユニット行事（かき氷、バック作り・ワラビ餅）
9 月	ユニット行事（お月見団子づくり）しおりまつり 2018
10 月	ユニット行事（公園散策、きんとん作り） BBQ
11 月	ユニット行事（味噌田楽、五平餅、外食行事）
12 月	ユニット行事（クリスマス会、ライト作り）
1 月	ユニット行事（すき焼き、カニ鍋と船盛り）餅つき・かき餅作り
2 月	ユニット行事（あんこ巻きづくり）
3 月	ユニット行事（足湯）、お花見行事

平成 30 年度 社会福祉法人寿泉会 しおりの里認知症対応型通所介護事業報告書

1. 認知症対応型通所介護事業所の運営方針について

認知症状、疾病等、および精神上的の障害がある高齢者の相談や受け入れを行い、ご家族の身体的、精神的な負担軽減を図ることに取り組むことができました。また、連絡ノートを活用することで状態報告等、ご家族との連携・情報交換を行うことで、認知症ケアの日常生活上の援助に取り組むことができました。

2. 認知症対応型通所介護事業所としての取り組み

(1) 利用者確保へ向けた取り組み

急な依頼や調査契約、追加利用依頼等に迅速に対応ができ、利用者確保に繋げる取り組みができました。

また、他事業所との情報交換や報告などをこまめに行うことにより、新規依頼に繋げることができました。

(2) 職員の資質向上へ向けた取り組み

事故報告書（ヒヤリハット）での検証や会議等での検討、職員行動規範の周知徹底により資質向上に努めることができました。

施設内研修（認知症サポーター養成講座）を実施し、職員の知識向上に取り組むことができたが、施設外研修には職員不足等により参加できなかったため、今後の課題となります。

(3) サービスの質の向上へ向けた取り組み

認知症ケアの確立に向けて、一般型通所介護や他の事業所、ご家族や担当ケアマネージャーと情報交換および情報共有を行い、本人様の状態変化などがあればケア内容を見直すことなど連携を図ることで個々のサービス提供に取り組むことができました。

3. 主な行事の実施

8月 縁日 コミュニケーションの増加や縁日の雰囲気を楽しんでいただきます。各場所を選択できるため自己決定や回想法効果も得られました。

9月 バーベキュー 他のご利用者や職員との親睦を深める機会を得、楽しい雰囲気を味わっていただきました。

12月 忘年会 生活の質（QOL）の向上を図れ、他の利用者様や職員との交流や食事の楽しみを通じて心身の活性化につながることができました。

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

会議名	開催頻度	内容
運営会議	毎月開催	事業所の運営に関する内容
DS会議	毎月開催	DSの業務に関する内容

(2) 研修

研修名	開催回数	内容
認知症サポーター養成講座	随時	認知症の基本的な理解に関する内容

5. コストに関する取り組み

- ・介護員不足の状況に対処するため、効率的な業務の見直しに取り組み、改善できた部分があるがまだ検討する必要があります。
- ・必要物品（特に消耗品）購入の際、あらかじめ担当者を決め在庫管理の把握し、適切な量を無駄のないよう取り組めました。

6. 事業所の稼働管理

- ・職員配置が困難なため、4月より利用者定員数を24名→12名へと変更します。
- ・平成30年度の日報表を作成し、日々の稼働数を確認することで、曜日ごとの稼働数など分析することができ、依頼に対する応答や提案も時間をかけず行うことができました。

7. 利用実績

(1) 利用者実績

	開所 日数	延べ 利用者数	平均 利用者数	登録者数（予防）		平均 介護度	
				男性（予）	女性（予）		
				合計			
平成 30 年度	4月	25日	188人	7.5人/日	(0)人	(0)人	2.3
					(0)人		
	5月	27日	205人	7.6人/日	(0)人	(0)人	2.4
					(0)人		
	6月	26日	202人	7.8人/日	(0)人	(0)人	2.7
					(0)人		
	7月	26日	202人	7.8人/日	(0)人	(0)人	2.7
					(0)人		
	8月	27日	250人	9.3人/日	(0)人	(0)人	2.8
					(0)人		
	9月	24日	209人	8.7人/日	(0)人	(0)人	2.8
					(0)人		
	10月	27日	237人	8.8人/日	(0)人	(0)人	2.7
				(0)人			
11月	26日	243人	9.3人/日	(0)人	(0)人	2.7	
				(0)人			
12月	24日	231人	9.6人/日	(0)人	(0)人	2.7	
				(0)人			
1月	24日	239人	10.0人/日	(0)人	(0)人	2.6	
				(0)人			
2月	24日	231人	9.6人/日	(0)人	(0)人	2.6	
				(0)人			
3月	26日	255人	9.8人/日	(0)人	(0)人	2.5	
				(0)人			
年度 合計	合計 306 日	延べ 2,692人	年間平均 8.8人/日	(0)人	(0)人	平均 2.6	
				(0)人			

(2) 年齢別利用者数（平成30年度末現在）

	64歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	合計	平均年齢 (歳)
男	0	1	1	3	1	4	3	13	82.2
女	0	0	0	1	3	4	2	10	84.4
計	0	1	1	4	4	8	5	23	83.1
%	0%	4%	4%	18%	18%	35%	21%	100%	—

(3) 介護度別世帯状況 (平成 30 年度末現在)

区 分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援 1				
要支援 2				
要介護 1		3		3
要介護 2		3	1	1
要介護 3	1	6	1	
要介護 4		1		1
要介護 5			1	1

(4) 利用者の生活状況 (平成 30 年度末現在)

食事	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	1 8	4	1	2 3	
移動	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
	1 1	7	0	5	2 3
入浴	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	2	1 3	8	2 3	
着脱	自力	一部介助	全介助	計	
	2	1 3	8	2 3	
排泄	自力	一部介助	全介助	計	
	8	8	7	2 3	
おむつ使用	常時使用	夜間使用	計		
	0	0	0		

(5) 年間の行事等 (平成 30 年度)

行事实施月及び行事名等	
4 月	
5 月	おやつ作り
6 月	料理作り
7 月	すいか割り
8 月	縁日
9 月	バーベキュー
10 月	バーベキュー
11 月	外出支援 (紅葉)
12 月	忘年会
1 月	餅つき大会
2 月	足湯
3 月	外出支援 (花見)
備考	8 月にバーベキュー用品購入のため、外出支援 (買い物) 行った。

平成 30 年度 社会福祉法人寿泉会
しおりの里デイサービスセンター事業報告書

1. 事業所の運営方針について

- イ) 認知症や疾患等による利用者様に対し、日々の体調面・精神面等の変化を把握し、ご家族様や関連事業所等に状態を即座に報告することで信頼関係を築き、安心してサービスを受けていただけるように取り組みました。
- ロ) 食事や入浴などの提供に関しては、その日のご利用者様の体調や要望に合わせて臨機応変に対応しました。
- ハ) 生活機能維持・向上のために個別機能訓練を実施し、ADLの維持・向上に努めました。
- ニ) 介護および看護業務の見直しを行い、現状に合った職員配置で利用者様へのサービス提供を行いました。

2. しおりの里デイサービスセンター事業所としての取り組み

- (1) 利用者確保へ向けた取り組み
- ・居宅介護支援事業所から依頼があった時には、新規利用者様を断ることなく、細かに情報共有を行いました。
 - ・急な追加利用等には柔軟に対応し承りました。
- (2) 職員の資質向上へ向けた取り組み
- ・デイサービス会議において規律等を周知し、必要があれば個々に面談を行いました。
- (3) サービスの質の向上へ向けた取り組み
- ・認知症に対しての理解を再確認するためにも、職員全員が認知症サポーター研修を受講しました。
 - ・デイサービス会議において、接遇や業務の内容について周知し理解を得ました。

3. 主な行事の実施

8月・・・縁日 12月・・・忘年会 1月・・・餅つき

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

会議名	開催頻度	内容
運営会議	毎月開催	事業所の運営に関する内容
デイサービス会議	毎月開催	デイサービスの業務に関する内容

(2) 研修

研修名	開催回数	内容
認知症サポーター養成講座	随時	認知症の基本的な理解に関する内容

5. コストに関する取り組み

- イ) カラーコピーを極力避けました。
- ロ) 節電に努めました。
- ハ) 消耗品の無駄使いを控えました。

6. 事業所の稼働管理

日々において実績をパソコン入力し稼働状況を確認しました。それを基に運営状況確認シート及び月次報告シートを作成し、月々の売り上げ状況を把握しながら業務を行ってまいりました。

7. 利用実績データ（通所事業所分）

（1）利用者実績

	開所 日数	延べ 利用者数	平均 利用者数	登録者数（予防）		平均 介護度	
				男性（予）	女性（予）		
				合計			
平成 30 年度	4月	30日	824人	27.4人/日	(4)人	(11)人	2.0
					(15)人		
	5月	31日	887人	28.6人/日	(4)人	(8)人	2.0
					(12)人		
	6月	30日	812人	27.0人/日	(4)人	(14)人	1.9
					(18)人		
	7月	30日	822人	27.4人/日	(4)人	(9)人	1.9
					(13)人		
	8月	31日	842人	27.1人/日	(3)人	(9)人	1.9
					(12)人		
	9月	29日	781人	26.9人/日	(3)人	(8)人	1.9
					(11)人		
	10月	31日	804人	25.9人/日	(3)人	(10)人	1.9
				(13)人			
11月	30日	732人	24.4人/日	(3)人	(11)人	1.9	
				(14)人			
12月	28日	688人	23.8人/日	(3)人	(11)人	1.9	
				(14)人			
1月	28日	715人	25.5人/日	(3)人	(10)人	1.9	
				(13)人			
2月	28日	751人	26.8人/日	(3)人	(10)人	1.9	
				(13)人			
3月	31日	812人	26.1人/日	(3)人	(7)人	1.9	
				(10)人			
年度 合計	合計 357日	延べ 9470人	年間平均 26.4人/日	(40)人	(118)人	平均 1.9	
				(158)人			

（次頁に続く）

(2) 年齢別利用者数 (平成 30 年度末現在)

	64歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	合計	平均年齢(歳)
男	0	2	0	3	6	8	5	24	84.6
女	2	0	1	3	18	27	19	70	87.5
計	2	2	1	6	24	35	24	94	86.8
%	2%	2%	1%	6%	25%	37%	26%	100%	—

(3) 介護度別世帯状況 (平成 30 年度末現在)

区 分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援 1	1	3	3	1
要支援 2	1	0	0	4
要介護 1	12	6	7	8
要介護 2	4	6	5	8
要介護 3	1	4	5	4
要介護 4	1	3	1	3
要介護 5	1	0	1	1

(4) 利用者の生活状況 (平成 30 年度末現在)

食 事	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	85	7	1	93	
移 動	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
	24	53	10	6	93
入 浴	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	8	51	15	74	
着 脱	自力	一部介助	全介助	計	
	16	44	13	73	
排 泄	自力	一部介助	全介助	計	
	48	36	7	91	
おむつ使用	常時使用	夜間使用	計		
	3	1	4		

(5) 年間の行事等 (平成 30 年度)

行事实施月及び行事名等	
4 月	【慰問】 4/10 : ひぐらしハーモニカ 4/14 : サウンドコラージュ吹奏楽
5 月	【慰問】 5/26 : アロママッサージ
6 月	【慰問】 6/16 : バイオリン・ギター演奏 アンダンテ 4 3
7 月	7/7 : 笹流し
8 月	【慰問】 8/4 : 詩吟 8/24 知的障がい児「てらこや」ダンス・演奏・折り紙等 施設内イベント『縁日』8/23～8/25
9 月	しおり祭り 9/15 バンド演奏鑑賞
10 月	【慰問】 10/6 : 詩吟・剣舞 10/28 : アロマセラピー
11 月	施設内イベント『さつまいも餅作り』11/14
12 月	施設内イベント『DS忘年会』12/3～5 【慰問】 12/22 : アロマセラピー
1 月	施設内イベント『もちつき』1/18
2 月	【慰問】 2/23 : アロマセラピー 2/26 : 民謡・踊り秀の会
3 月	施設内イベント『春のおやつ作り』3/26

平成30年度 社会福祉法人 寿泉会 しおりの里短期入所生活介護事業所事業実績報告書

1. 平成30年度の事業活動について

短期入所生活介護事業所として、利用者様の心身の状況もしくは、家族様の疾病、冠婚葬祭、出張、または介護負担の軽減を要するなど、一時的に居宅において日常生活を営むことに支障がある利用者様の受入れを行いました。

- ・「行動目標」、ならびに個々に目標を立てることで取り組みを行いました。
- ・利用者様の視線を基本にして、目標の達成に向け取り組みました。
- ・事業運営の視点について意識付けが行えました。
- ・医療ニーズを必要とする利用者の受入れに課題が残りました。

2. サービス提供について

(1) 機能訓練（リハビリテーション）について

- ・適宜、身体機能、生活動作、車椅子調整等を中心に評価検討を行いました。
在宅環境の情報と照らしあわせ、機能訓練に取り組みました。
体制に伴う配置であるため、介護スタッフによる生活リハビリが中心となりました。
- ・食事動作の見直しや自助具の導入など、多職種で連携し行いました。
褥そう予防、拘縮予防においても、多職種で連携し、ポジショニングの検討及び実施を
しました。

(2) 日中活動（アクティビティサービス）について

- ・季節に合わせたフロアの飾りつけを行いました。
食に関するイベントでは「におい」「味」「音」「雰囲気」を演出しました。

(3) 認知症ケアについて

- ・グループのカンファレンスを活用し、アセスメントの向上に努めました。
- ・事例課題を通して、知識の向上に努めました。

(4) 栄養管理、食の楽しみについて

★栄養状態改善

- ①四季の行事ポスターを作成し配布しました。ランチオンマット等により利用者様に親しんでいただきやすい物も作成しました。
- ②褥瘡利用者に対して、発生した場合は看護師と連携し、栄養強化食品を検討しました。

★便秘の改善・対策

- ①水分チェックを行いながら、利用者への声かけを実施しました。
- ②食事だけでなく、おやつで食物繊維強化食品を使用しました。

★食の楽しみ

- ①看護師・介護員・言語聴覚士と相談のうえ、個人に見合ったものを提供しました。
- ②ソフト食の取り組みとして厨房職員協力のもと、味だけでなく見た目にも凝ったものを提供しました。
- ③各ユニットの担当職員と相談のうえ、季節に応じた行事の提案を行いました。

(5) 感染症対策について

- ①同敷地内の特別養護老人ホームと合同で年間計画通り、月1回開催しました。
インフルエンザ発症時期には、早期発見に努め対応を図りました。
- ②委員会にて作成したマニュアルを確認し、周知を行いました。管理栄養士より外部での勉強会、研修に参加し知識の向上を図りました。
- ③吐物研修、手洗い研修を計画通り実施しました。

(6) 事故抑止について

報告用紙を変更し、インシデントとアクシデント区分を設け取り組みました。

3. 行事の実施について

(1) 施設全体行事

- ①8月に夏祭りを短期入所全体で実施しました。
- ②9月にしおりまつりを、しおりの里全事業所で実施しました。
- ③10月に鉄板焼きを地域密着型特別養護老人ホームと合同で実施しました。
- ④翌年1月に新年会（餅つき）を企画していましたが、インフルエンザ流行に伴い中止としました。

(2) ユニット行事

- ①年間行事の計画に沿って実施しました。
- ②毎月1回のイベントは継続して実施できましたが、企画そのものが人員不足により職員本位になってしまったことに課題が残りました。
- ③音楽活動を組み入れることにより、生活の中でメリハリができたと考えます。

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

会議名	開催頻度	内容
運営会議	毎月開催	事業所の運営に関する内容
ユニット・ケース会議	毎月開催	個別ケア、職員の業務等に関する内容
介護リーダー・ ユニットリーダー会議	毎月開催	行事割り振り、情報共有、業務改善に関する内容
看護師会議	毎月開催	個別のケース、業務に関する内容
短期入所会議	年6回開催	顧客満足に関する内容

(2) 研修

グループ研修を企画しておりましたが、人員の選出が困難であり、計画通りに実施ができませんでした。外部研修の企画と共に、内部研修では実施日、実施時間を考慮するとともに、人事、および研修計画者と連携し取り組んでいく必要がありました。

(3) 委員会（施設系事業所及び通所事業所で委員会を設置している事業所）

委員会名	開催回数
身体拘束・権利擁護委員会	12回（毎月）
安全衛生委員会	12回（毎月）
事故防止委員会	12回（毎月）

5. コストに関する取り組みについて

- ① 営繕担当者を配置することにより、必要な修理、物品の購入が速やかに行えるようになりました。
- ② 必要物品の検討については、各職員が費用対効果を意識し、購入の必要性を理解できるように、各職員の了解を求めるプロセスの精度を高めました。
- ③ 福祉用具のメンテナンスを定期的に行うことで、福祉用具の破損の減少に努めました。
- ④ 不要照明の消灯、エアコンのON/OFFに努めました。

6. 事業の稼働について

稼働と人員のバランスが崩れてしまい、平成31年2月より配置に伴う加算も未取得となり減収に至っております。あわせて、入浴サービスの提供、および共有スペースのスタッフ配置多職種で連携して対応しており、受入れが困難な状況となり下降しております。

7. 利用実績データ（短期入所事業分）

（1）利用者実績

区分	第1短期入所生活介護事業所	延利用者数計 平均稼働率
延利用者数	13,228	1,102
年間稼働率	90.6%	90.6%

（2）年齢別利用者数（平成30年度末現在）

区分	64歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	合計	平均年齢 (歳)
〇〇事業所	男	0	0	0	12	13	14	54	84.8
	女	0	1	0	9	24	33	109	87.7
	計	0	1	0	21	37	66	163	
	%	0%	0.6%	0%	12.8%	22.6%	29.3%	40.2%	86.2

（3）要介護度別延べ利用者数

区分	第1短期入所生活介護事業所	計
要支援1	11	11
要支援2	103	103
要介護1	658	658
要介護2	2,124	2,124
要介護3	6,086	6,086
要介護4	2,997	2,997
要介護5	1,249	1,249
計	13,228	13,228
平均介護度	3.1	3.1

(4) 介護度別世帯状況（平成 30 年度末現在）

区 分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援 1	1	0	1	0
要支援 2	1	1	2	0
要介護 1	5	7	6	5
要介護 2	4	4	16	10
要介護 3	16	10	5	11
要介護 4	15	8	13	2
要介護 5	10	3	8	2

(5) 認知度別利用者数（平成 30 年度末現在）

区分	第 1 短期入所生活介護事業所	計
Ⅲ未満	6	6
Ⅲ以上	158	157
計	164	163

平成 30 年度 社会福祉法人寿泉会 しおりの里第 2 短期入所生活介護事業所 事業実績報告書

1. 平成 30 年度の事業活動について

運営理念『楽』に対して継続的に取り組むことで、事業所内のムードの改善を推進した年度となりました。職員の発案による事業所全体の行事の開催、事業所内研修及び勉強会の企画・運営、マニュアルの見直しなどの取り組みを行うことができました。職員の提案と発想が取り組みに萌芽する年度であったと振り返ります。

2. サービス提供について

(1) 機能訓練（リハビリテーション）について

適宜、カンファレンスのタイミングや、依頼のあった際に評価を実施しました。実際に適していないこともあり、再評価を行なうこともありました。

実際の在宅の環境評価、ましてや情報収集でさえ行なえなかったため、適確な環境設定は行なえなかったようでした。そこで、実際に住宅をみた職員（相談員等）が状況に合わせた環境設定を実施しました。

体制に伴う配置であるため、介護スタッフによる生活リハビリが中心となりました。多職種連携といった面においては、委員会や適時評価を行なう中で図れていたようでしたが、周知徹底という面においては不十分な面もあったように感じました。

(2) 日中活動（アクティビティサービス）について

- ①各ユニットで季節感を味わうための準備等、食に関する行事を行いました。
- ②定期的に開催する体操、音楽を取り入れ実施しました。

(3) 認知症ケアについて

- ①グループのカンファレンスを活用し、アセスメントの向上に努めました。
- ②事例課題を通して、知識の向上に努めました。

(4) 栄養管理、食の楽しみについて

- ①栄養状態の改善について、低栄養状態の方に栄養補助食品を提供して体重の改善に取り組みました。
- ②便秘の改善・対策について、水分の促し、おやつでの食物繊維強化食品を使用している取り組みを継続しています。
- ③食の楽しみとして、食品加工後も味だけでなく、見た目も意識して提供させていただきました。
- ④各担当職員とイベントについて協議し、季節に応じた行事の提案を行いました。

(5) 感染症対策について

- ①委員会を毎月開催、季節に応じた対応を検討して実施しました。
- ②委員会主催にて、吐物処理、手洗い研修を行い感染症予防及びまん延防止に努めました。
- ③インフルエンザの発症を認めましたが、ユニット単位で対応することでまん延防止に努めました。

(6) 事故抑止について

報告用紙を更新し、インシデントとアクシデント区分を設け取り組みました。

3. 行事の実施について

(1) 施設全体行事

- ①4月にお花見を短期入所全体で実施しました。
- ②7月にラーメン屋体験、スイカ割りを広域型特別養護老人ホームと合同で実施しました。
- ③9月にしおりまつりを、しおりの里全事業所で実施しました。
- ④10月におやつBBQを広域型特別養護老人ホームと合同で実施しました。
- ⑤翌年1月に餅つきとかき餅作りを広域型特別養護老人ホームと合同で実施しました。

(2) ユニット行事

- ①4月に天ぷら作りを11番地で実施しました。
- ②5月に音楽会を11番地で、寿司バイキングを15,16番地で実施しました。
- ③6月にフルーツバイキングを11番地で実施しました。
- ④8月にバッグ作りを11番地で、ケーキバイキングを15,16番地で実施しました。
- ⑤9月にお月見団子作りを11番地で、韓国料理体験を15,16番地で実施しました。
- ⑥10月に外出行事を11番地で、ハロウィンパーティーを15,16番地で実施しました。
- ⑦12月にクリスマス会を11番地で実施しました。
- ⑧翌年1月に餃子パーティーを15,16番地で実施しました。
- ⑨2月にのど自慢大会を15,16番地で実施しました。
- ⑩3月にひなまつりを15,16番地で実施しました。

年間を通して、11番地はADLが高めの方が多く、工作などの行事もあり利用者様に楽しめていただけたと思います。ただ、後半は人員不足に伴い、行事の実施が出来なかったのが課題であったと考えます。15,16番地は食べ物を使った行事が多く、楽しんでいただけたと思います。開催日程などを考え直していくことが来年度の課題と考えます。

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

会議名	開催頻度	内容
運営会議	毎月開催	事業所の運営に関する内容
ユニット・ケース会議	毎月開催	個別ケア、職員の業務等に関する内容
介護L・UL会議	毎月開催	行事割り振り、情報共有、業務改善に関する内容
看護師会議	毎月開催	個別のケース、業務に関する内容
短期入所会議	年6回開催	顧客満足・取り組みに関する内容

(2) 研修

グループ研修を企画しておりましたが、人員の選出が困難であり、計画通りに実施ができませんでした。外部研修の企画とともに、内部研修では実施日、実施時間を考慮するとともに、人事及び、研修計画者と連携し取り組んでいく必要があると感じました。

(3) 委員会（施設系事業所及び通所事業所で委員会を設置している事業所）

委員会名	開催回数
身体拘束・権利擁護委員会	12回（毎月）
安全衛生委員会	12回（毎月）
事故防止委員会	12回（毎月）
褥瘡予防対策委員会	12回（毎月）

5. コストに関する取り組みについて

①営繕担当者を配置することにより、必要な修理、物品の購入を速やかに行うことができるようになりました。

必要物品の検討については、各職員が費用対効果を意識し、購入の必要性を理解できるように各職員の了解を求めるプロセスの精度を高めました。

②福祉用具のメンテナンスを定期的に行うことで、福祉用具の破損の減少に努めました。

③職員の時間外勤務については必要人員の把握、適正配置を常に考慮しながら、削減に努めていきます。

6. 事業の稼働について

目標稼働率：87.0%に対し、年間累計稼働率：90.8%であり、目標は達成しました。

前年度同様、居宅介護支援事業所へ当法人の実績を知っていただくために営業活動を実施し、情報共有を図り、利用に繋がるケースが増加しています。

ユニットにおいては人員が整っていない箇所もあるため、ユニットを超えて連携しつつ次年度においては例年以上の速やかな補充対応が必要です。

7. 利用実績データ（短期入所事業分）

(1) 利用者実績

区分	しおりの里第2短期入所 生活介護事業所	延利用者数計 平均稼働率
延利用者数	9,974	90.8%
年間稼働率	9,974	90.8%

(2) 年齢別利用者数（平成30年度末現在）

区分	64歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	合計	平均年齢 (歳)	
第1 短期 生活 介護 事業 所	男	2	2	2	5	7	10	22	48	86.53
	女	2	2	0	7	25	37	47	120	87.04
	計	4	4	2	12	32	47	69	168	86.89
	%	2	2	1	7	19	28	41	100%	—

(3) 要介護度別延べ利用者数

区 分	しおりの里第2短期入所生活介護事業所	計
要支援1	77	77
要支援2	89	89
要介護1	731	731
要介護2	1,678	1,678
要介護3	4,873	4,873
要介護4	1,656	1,656
要介護5	870	870
計	9,974	9,974
平均介護度	3.0	3.0

(4) 介護度別世帯状況（平成30年度末現在）

区 分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援1	1	0	0	2
要支援2	2	1	2	1
要介護1	4	8	8	8
要介護2	11	6	19	5
要介護3	18	7	13	7
要介護4	8	12	8	3
要介護5	3	5	3	3

(5) 認知度別利用者数（平成30年度末現在）

区分	しおりの里第2短期入所生活介護事業所	計
Ⅲ未満	88	88
Ⅲ以上	80	80
計	168	168

平成 30 年度 社会福祉法人寿泉会 しおりの里居宅介護支援事業実績報告書

1. 平成 30 年度の事業活動について

- ・就労しているご家族様や病院等のご都合に合わせて、勤務時間以外も訪問を実施しました。
- ・言葉遣いや身だしなみ等、不快感を与えないように、接遇を意識し業務を行いました。
- ・できる限り在宅でという利用者様、ご家族様の気持ちや状況の変化に応じ、寄り添い、適切な情報が提供できるように、職員のスキル向上に努めました。
- ・特定事業所集中減算の適用を受けないように、公正中立的な情報の提供と選択の自由を尊重し、提出に必要な書類を整えました。
- ・研修会、地域交流会、ケア会議などに積極的に参加し、地域との交流や職員の資質向上に努めました。
- ・特定事業所加算の要件を満たすように、職員全員が意識し努力しました。
- ・医療機関はじめ、多職種との連携に努めました。

2. サービス提供について

(1) 利用者確保へ向けた取り組み

- ・各包括などを訪問し、新規利用者の受入れに努力しました。
- ・グループ内の事業所に対し、受け入れ態勢が可能であることを伝えました。

(2) 職員の資質向上へ向けた取り組み

- ・週 1 回の朝会議の中で事例検討も行き、より良いケアマネジメントが行えるように職員全員が情報共有をしました。
- ・年間事業計画の中に、各職員の研修事項と全体での研修内容を計画し実施しました。
- ・各機関や地域及び包括主催の研修会に参加しました。

(3) サービスの質の向上へ向けた取り組み

- ・他事業所の施設やサービス内容など、提案できるように情報収集に努めました。
- ・丁寧な説明と誠実な対応を心がけ、信頼関係を深めるように努めました。
- ・他事業所とも連携を図り、利用者様の意向にできるだけ沿うように努めました。
- ・その他の制度や地域の情報なども提案できるよう、知識を深める努力をしました。

3. 会議・研修等の開催

(1) 会議

- ・毎月 1 回の居宅会議を開催しました。
- ・おおむね週 1 回の「特定事業所加算」における会議が開催できました。

(2) 研修

- ・津市や各包括が開催する制度改正に関する説明会に参加できました。
- ・医療・福祉・多職種連携による事例検討会に参加できました。
- ・地域ケア会議に参加できました。
- ・その他の機関が主催する研修会に参加できました。

4. コストに関する取り組みについて

- ・裏紙の使用や資料共有などの実施を通じ、用紙の節約に努力しました。
- ・津市役所や事業所訪問など、声をかけあい効率よく訪問することができました。
- ・事業所の掃除を行い、机を整理すること、備品を大切に扱うことで破損や故障を防ぎました。
- ・文具類の節約と再利用に努めました。

5. 利用実績データ（居宅介護支援事業所分）

（1）利用者実績

区分	月	月												合計	人数 (%)	前年比 (%)
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
予 防	支援1	26	26	27	26	22	22	24	24	20	20	19	19	275人	9	90
	支援2	56	54	51	56	56	52	50	45	39	38	38	38	573人	19	95
介 護	介護1	66	66	70	62	63	66	57	58	57	55	61	63	744人	24	87
	介護2	60	63	60	68	65	65	58	52	53	51	54	55	704人	23	99
	介護3	53	48	45	39	37	38	40	37	33	34	31	29	464人	15	95
	介護4	16	18	17	19	20	20	19	19	20	18	19	16	221人	7	107
護	介護5	11	10	13	12	8	7	8	7	8	7	7	8	106人	3	87
合 計		288	285	283	282	271	270	256	242	230	223	229	228	3,087人	100	94

（2）年齢別利用者数（平成30年度末現在）

	64歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	合計	平均年齢 (歳)
男	0	5	7	8	16	24	14	74	85～89
女	4	5	6	15	38	55	37	160	85～89
計	4	10	13	23	54	79	51	234	85～89
%	2	4	6	10	23	34	21	100	—

（3）介護度別世帯状況（平成30年度末現在）

区 分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援1	4	7	3	6
要支援2	16	8	5	9
要介護1	19	18	6	21
要介護2	13	15	9	17
要介護3	7	10	3	11
要介護4	3	7	1	8
要介護5	2	2	1	3

（次頁に続く）

(4) ご契約状況等 (平成 30 年度)

新規契約理由		解約理由			継続中
		ADL 改善	入院	その他	
退院支援	3				3
認知症支援	2		1		1
看取り					
その他	25		1	2	22
合計	30		2	2	26

(5) 年間の研修・会議開催状況 (平成 30 年度)

実施月及び研修・会議等	
4 月	居宅会議、朝会議、津市在宅医療説明会、認定調査員研修、西包括事例検討会
5 月	居宅会議、朝会議、地域包括ケアシステム講演会、医療福祉連携懇話会、地域交流会、地域ケア会議、介護報酬改定説明会
6 月	居宅会議、朝会議、津市居宅向け研修会、地域ケア会議、障害福祉制度勉強会
7 月	居宅会議、朝会議、認知症の症状・治療等の勉強会、福祉用具研修会、地域ケア会議、在宅医療勉強会、
8 月	居宅会議、朝会議、津市集団指導、高齢者生活の研究会、
9 月	居宅会議、朝会議、包括交流会、包括事例検討会
10 月	居宅会議、朝会議、地域ケア会議、包括事例検討会、認知症患者についての研修会、地域ケア会議、元気高齢者の育成支援について、介護予防従事者研修会
11 月	居宅会議、朝会議、予防プラン勉強会、困難事例について、施設居住者ケアプランについて、災害研修会
12 月	居宅会議、朝会議、多職種アセスメント事例検討会、
1 月	居宅会議、朝会議、包括事例検討会、介護支援専門員相談会
2 月	居宅会議、朝会議、医療に関する諸制度、災害時対応マニュアル、事例検討会、精神保健福祉支援について、多職種連携研修会、高齢者虐待防止法について
3 月	居宅会議、朝会議、リハビリの研修会、事例報告会、地域ケア会議

**平成 30 年度 社会福祉法人 寿泉会
特別養護老人ホーム泉園（短期入所者生活介護事業）事業実績報告書**

1. 平成 30 年度の事業活動について

・利用者様の健康力向上、元気力向上を図り、ゆとりを保つために個々の利用者様への対応を試みました。入所者の方々の健康管理を行い、体調不良時等に早期の対応が出来るよう観察項目の共有を図り、状態の観察を行いました。併設する短期入所生活介護事業所との連携を図り、新規入所への期間の短縮を図ってきました。

2. サービス提供について

(1) 機能訓練（リハビリテーション）について

・理学療法士による日常動作訓練・関節可動域訓練を行い、座位・臥位のポジショニングのアドバイスをもらい、入所者の機能維持に役立てるよう行いました。

(2) 日中活動（アクティビティサービス）について

・施設内外の色々な行事の企画・提供を行い、入所者の方々に参加をしていただきました。

(3) 認知症ケアについて

・職員が研修等に参加し認知症についての理解を深め、個々に寄り添い利用者の方々が落ち着いて過ごしていただけるような支援を行いました。

(4) 口腔・栄養管理について

・管理栄養士のもとで栄養ケアを行い、口腔ケアについては介護にて実施を行い、必要あれば歯科医による指導・治療を行いました。

(5) 感染症対策について

・処置時の手袋着用を徹底し、職員のうちがい・手洗い・マスク着用を行いましたが、また次亜塩素酸空間清浄機を導入し感染症の予防に役立てました。

(6) 事故抑止について

・インシデントとアクシデントを分析し、対策を講じその後の経過観察を行い、ケアプランへの反映を行い再発防止に努めました。

3. 行事の実施について

(1) 施設全体行事

5 ページ「平成 30 年度実施行事」のとおり開催しました。

(2) フロア行事

・定期的に喫茶コーナー等を開催し、利用者間の会話の機会の提供、職員とのコミュニケーションの場を持ちました。

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

毎月の運営会議・リーダー会議・入所判定会議を開催しております。各委員会についても基本的に毎月の開催を行っています。

(2) 研修

施設内研修に参加しました。老施協・社会福祉協議会等が開催する研修、認知症に関する施設外での研修へも、希望する職員が参加しています。

(3) 委員会

身体拘束廃止検討委員会・感染症予防対策委員会・リハビリ委員会・褥瘡対策検討委員会・サービス向上委員会・行事企画委員会の設置があり、それぞれ活動を行っています。

5. コストに関する取り組みについて

イ) 現場のスタッフ間でのコスト意識の共有に力を入れすべての節約に取り組んでいます。

特に、施設内の節電・節水に努めています。施設の物品に関しても、基本的に修理することとしています。新規購入については、十分に精査したうえでの検討とします。

ロ) 今年度については、特浴の機械の買い替え等設備の修繕等費用がかかりました。

6. 事業の稼働について

・平成 30 年度については、稼働率目標 97% に対して実稼働率は 93.6% でした。

前年度のような感染症の蔓延はありませんでしたが、前年度の入院・退所の影響を 7 月まで引きずった状況になってしまい実績が目標値を下回りました。

7. 利用実績データ (入所事業所分)

(1) 利用者実績

区分	特別養護老人ホーム 泉園	延利用者数計 平均稼働率
延利用者数	27,334 人	27,334 人
年間稼働率	93.61%	93.61%

(2) 入退所状況（再入所を含む。）

特別養護老人ホーム 泉園					
区分	入所	退所			
		死亡	入院	在宅	他施設
男	6	2	3	0	0
女	16	8	5	0	3
計	22	10	8	0	3
		21			

(3) 年齢別利用者数（平成 30 年度末現在）

区分	64歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	合計	平均年齢 (歳)
特養 泉園	男	1	0	2	3	3	5	16	81.31
	女	0	2	1	6	12	16	61	87.41
	計	1	2	3	9	15	21	77	86.14
	%	1.3	2.6	3.9	11.69	19.48	27.27	33.77	100

(4) 在籍期間別利用者数（平成 30 年度末現在）

区分	14日以内	15日～1月	1～3月	3～6月	6月～1年	1～2年	2年以上	合計
特養 泉園	男	0	0	0	2	4	2	16
	女	1	0	2	3	7	7	61
	計	1	0	2	5	11	9	77
	%	1.3	0	2.6	6.49	14.29	11.69	63.64

(5) 要介護度別利用者数（平成 30 年度末現在）

区分	特別養護老人ホーム 泉園	計
要介護 1	0	0
要介護 2	1	1
要介護 3	13	13
要介護 4	33	33
要介護 5	30	30
計	77	77
平均介護度	4.19	4.19

(6) 認知度別利用者数（平成 30 年度末現在）

区分	特別養護老人ホーム 泉園	計
Ⅲ未満	25	25
Ⅲ以上	52	52
計	77	77

(7) 利用者の食事形態（平成30年度末現在）

ア) 主食形態

区分	普通	軟飯	全粥	ミキサー	特別療養食	経管栄養	計
特養 泉園	13	19	37	4	0	4	77
計	13	19	37	4	0	4	77

イ) 副食形態

区分	普通	きざみ	超きざみ	ミキサー	超々キザミ	経管栄養	計
特養 泉園	6	19	30	7	11	4	77
計	6	19	30	7	11	4	77

(8) 利用者の生活状況（平成30年度末現在）

ア) 食事

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
特養 泉園	28	31	18	77
計	28	31	18	77

イ) 移動

区分	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
特養 泉園	3	5	32	37	77
計	3	5	32	37	77

ウ) 入浴

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
特養 泉園	0	28	49	77
計	0	28	49	77

エ) 着脱

区分	自力	一部介助	全介助	計
特養 泉園	0	30	47	77
計	0	30	47	77

オ) 排泄

区分	自力	一部介助	全介助	計
特養 泉園	4	21	52	77
計	4	21	52	77

カ) おむつ使用

区分	常時使用	夜間使用	計
特別養護老人ホーム 泉園	41	9	50
計	41	9	50

(9) 平成 30 年度実施行事

行事実施月及び行事名等	
4月	花見、輪投げクラブ、華道クラブ、書道クラブ、おやつ作り
5月	泉ヶ丘保育園来園、手芸工作クラブ、輪投げクラブ、音楽カラオケクラブ、いちご狩り、買い物
6月	あじさい見学、盲学校実習、書道クラブ、音楽カラオケクラブ、輪投げクラブ、買い物
7月	音楽カラオケクラブ、書道クラブ、喫茶店、輪投げクラブ、買い物
8月	手芸工作クラブ、華道クラブ、音楽カラオケクラブ、おやつ作り、買い物
9月	泉ヶ丘保育園来園、盲学校実習、書道クラブ、買い物
10月	泉ヶ丘保育園来園、音楽カラオケクラブ、焼き芋、買い物
11月	泉ヶ丘保育園来園、書道クラブ、紅葉狩り、買い物
12月	泉ヶ丘保育園来園、盲学校実習、忘年会、買い物
1月	新年祝賀会、餅つき
2月	喫茶店
3月	泉ヶ丘保育園来園、入所者健診

7. 利用実績データ (短期入所事業所分)

(1) 利用者実績

区分	事業所名	延利用者数計 平均稼働率
延利用者数	泉園短期入所生活介護事業所	6,726
年間稼働率	同上	102.8%

(2) 年齢別利用者数 (平成 30 年度末現在)

区分	64歳以下	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90歳以上	合計	平均年齢 (歳)
〇〇事業所	男	1	1	2	8	4	7	26	80.61
	女	0	0	2	5	11	18	52	86.15
	計	1	1	4	13	15	25	78	84.31
	%	1.3	1.3	5.1	16.7	19.2	32.1	24.4	100

(次頁に続く)

(3) 要介護度別延べ利用者数

区分	事業所名	計
要支援 1	泉園短期入所生活介護事業所	0
要支援 2	泉園短期入所生活介護事業所	0
要介護 1	泉園短期入所生活介護事業所	584
要介護 2	泉園短期入所生活介護事業所	683
要介護 3	泉園短期入所生活介護事業所	2,653
要介護 4	泉園短期入所生活介護事業所	1,760
要介護 5	泉園短期入所生活介護事業所	1,046
計	泉園短期入所生活介護事業所	6,726
平均介護度	泉園短期入所生活介護事業所	3.3

(4) 介護度別世帯状況 (平成 30 年度末現在)

区 分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援 1	—	—	—	—
要支援 2	—	—	—	—
要介護 1	4	2	1	3
要介護 2	4	1	0	4
要介護 3	6	5	1	11
要介護 4	5	5	1	12
要介護 5	6	1	0	6

(5) 認知度別利用者数 (平成 30 年度末現在)

区分	事業所名	計
Ⅲ未満	泉園短期入所生活介護事業所	47
Ⅲ以上	泉園短期入所生活介護事業所	31
計	泉園短期入所生活介護事業所	78

平成30年度 社会福祉法人寿泉会 泉園デイサービスセンター事業報告書

1. 事業所の運営方針について

利用者様の人権と尊厳を守り、日常生活の活性化・心身機能の維持向上を目的とし、個々の残存機能に応じた自立生活を営むための分析を行い、居宅サービス計画に基づいた個別援助計画を作成し実施します。

また、日々介護に携わっている介護者の身体的・精神的負担を軽減し、利用者の方々の暮らしや趣味を生かした、様々なニーズに密着した質の高いサービスの提供に努めます。

2. 泉園デイサービスセンターとしての取り組み

(1)利用者確保へ向けた取り組み

- イ) 毎月実績報告と共に営業に努めます。
- ロ) 送迎範囲を広域し、新規獲得に努めます。
- ハ) 朝食、夕食を提供します。(利用時間8-9時間対応)
- ニ) 看護との連携のもと、重度の受け入れを積極的に行います。
- ホ) 他のデイサービスでは数少ない特殊浴槽(機械浴)での入浴を提供します。
- ヘ) 食事料金等の自費金額を低額で設定しています。

(2)職員の資質向上へ向けた取り組み

会議等で利用者様に対しての取り組みや業務の改善等を確認し、職員全員で問題点を解決、意識することで、個々に応じた介護を提供します。

(3)サービスの質の向上へ向けた取り組み

- イ) 相談員、看護師、介護員と常に情報共有を行い、状態、状況を把握し対応にあたります。
- ロ) 月1回の会議で、職員の意見交換を行い、利用者様のニーズに応えられるよう支援します。
- ハ) 内部よりインストラクターの講師に来ていただき、リハビリ等の実施をお願いしたり、職員に指導していただくことにより、効果的なサービスを提供できます。

(次頁に続く)

3. 主な行事の実施

(年間行事表)

	行事内容	備 考
4月	お花見（桜） おやつ作り	実施時期については桜前線を確認
5月	端午の節句 おやつ作り	雰囲気作り
6月	おやつ作り	
7月	七夕 夏祭り	雰囲気作り（短冊等）
8月	おやつ作り	
9月	お月見 おやつ作り	雰囲気作り
10月	運動会 おやつ作り	
11月	おやつ作り	
12月	忘年会・クリスマス会 おやつ作り	
1月	初詣 餅つき	最寄りの神社 おやつ作りの代わり
2月	節分 おやつ作り	豆まき等
3月	ひな祭り おやつ作り	雰囲気作り（ひな祭りに関したお菓子作り）

(月行事)

- ・誕生会
- ・泉農園（随時実施）
- ・慰問によるボランティア

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

会議名	開催頻度	内容
運営会議	毎月開催	事業所の運営に関する内容
デイサービス会議	毎月開催	業務の見直し、情報の共有、職員の意見交換
泉園全体会議	毎年開催	

(2) 研修

研修名	開催回数	内容
特になし		

5. コストに関する取り組み

水道光熱費や通信費の削減、ならびに備品や文具用品や生活雑貨品など消耗品の管理を行います。
職員1人1人がコスト意識を持ち、取り組んでいきます。

6. 事業所の稼働管理

- イ) 事業所の稼働目標数値を設定し、数値管理を行います。
- ロ) 稼働目標を下回った場合、稼働状況の分析を行い、対策を検討します。
- ハ) 考えた対策を実施しても効果が現れない場合は、再度検討します。

7. 利用実績（通所介護事業所）

(1) 利用者実績

		開所 日数	延べ 利用者数	平均 利用者数	登録者数（予防）		平均 介護度
					男性（予）	女性（予）	
					合計		
平成 30 年度	4月	25日	379人	15.2人/日	13（1）人	28（5）人	2.3
						41（6）人	
	5月	27日	401人	14.9人/日	12（1）人	26（5）人	2.3
						38（6）人	
	6月	26日	389人	15.0人/日	13（1）人	29（5）人	2.4
						42（6）人	
	7月	26日	403人	15.5人/日	13（2）人	30（5）人	2.5
						43（7）人	
	8月	27日	413人	15.3人/日	14（2）人	27（5）人	2.5
						41（7）人	
	9月	26日	383人	14.7人/日	15（2）人	27（6）人	2.5
						42（8）人	
10月	27日	447人	16.6人/日	14（2）人	26（5）人	2.6	
					40（7）人		
11月	26日	404人	15.5人/日	14（3）人	26（5）人	2.5	
					40（8）人		
12月	24日	357人	14.9人/日	13（3）人	24（5）人	2.6	
					37（8）人		
1月	24日	380人	15.8人/日	12（4）人	23（5）人	2.6	
					35（9）人		
2月	24日	371人	15.5人/日	14（3）人	23（5）人	2.5	
					37（8）人		
3月	26日	385人	14.8人/日	15（2）人	23（5）人	2.6	
					38（7）人		
年度 合計	合計 308日	延べ 4712人	年間平均 15.3人/日		162（26）人	312（61） 人	平均 2.5
					474（87）人		

(2) 年齢別利用者数（平成30年度末現在）

	64歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	合計	平均年齢（歳）
男	—	1	3	5	3	3	2	17	80.1
女	—	1	1	1	4	9	12	28	87.8
計	—	2	4	6	7	12	14	45	84.9
%	—	4.4	8.9	13.3	15.6	26.7	31.1	100	—

（次頁に続く）

(3) 介護度別世帯状況（平成 30 年度末現在）

区 分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援 1	2			
要支援 2	2			3
要介護 1	9	1		1
要介護 2	3		1	4
要介護 3			2	6
要介護 4	2		2	3
要介護 5				4

(4) 利用者の生活状況（平成 30 年度末現在）

食事	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	33	10	2	45	
移動	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
	19	18	4	4	45
入浴	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	17	22	6	45	
着脱	自力	一部介助	全介助	計	
	20	20	5	45	
排泄	自力	一部介助	全介助	計	
	20	20	5	45	
おむつ使用	常時使用	夜間使用	計		
	2	9	11		

(5) 年間の行事等（平成 30 年度）

行事实施月及び行事名等	
4 月	お花見（桜）・誕生会・おやつ作り
5 月	端午の節句・誕生会・おやつ作り
6 月	誕生会・おやつ作り
7 月	七夕・夏祭り・誕生会
8 月	誕生会・おやつ作り
9 月	お月見・誕生会・おやつ作り
10 月	運動会・誕生会
11 月	誕生会・おやつ作り
12 月	忘年会・クリスマス会・おやつ作り・誕生会
1 月	初詣・餅つき・誕生会
2 月	節分・おやつ作り・誕生会
3 月	ひな祭り・おやつ作り・誕生会

平成30年度 社会福祉法人寿泉会 津中部西地域包括支援センター事業実績報告書

1. 平成30年度の事業活動について

本人・家族・知人・地域住民(主に、自治会長など近隣住民)・関係機関(民生委員・市役所・病院・警察・居宅介護支援事業所のケアマネージャーなど)からの様々な相談に対し、相談内容に応じた専門職種の包括職員を担当とすることで適切な対応が出来るように取り組みました。また、相談を承った際にはできるだけ迅速な対応を心掛け、相談が重なった場合には緊急性に応じて優先順位を決めて対応するように取り組みました。そして、相談者等に対しては対象者の個人情報に配慮しながら対応後の結果連絡を確実にを行う様に心掛けました。長期継続的な相談ケースや連絡待ちの相談については、職員全員で経過を確認しながら状況を職員が把握する仕組みを継続して行うことができました。

地域ケアネットワーク会議では自治会長・民生委員・市役所・病院・警察・消防・居宅介護支援事業所のケアマネージャーの協力を得て、それぞれの地域での困り事や支援が必要と思われる人や社会資源などを実際に地図上に記すことで「見える化」し地域の状況を確認できました。

認知症施策総合推進事業においても、事業計画通りに実施ができ、認知症サポーター養成講座も開催する事ができました。

2. 各支援業務について

(1) 総合相談支援業務

【相談受付等について】

- ①相談記録は相談票を作成し、職員全員が対応できるように票を回覧するとともに、翌日の朝礼にて申し送りし情報の共有を図っています。また、担当者の不在時にも対応ができるように対応内容を支援経過に記録し情報の共有を行っています。
- ②連絡待ちになっているケース等、包括会議にて確認の時間を設け、適宜フォローができるような体制をとっています。

【地域ネットワークの構築】

- ①地域ケア会議は地域ケア個別会議5回、地域ケアネットワーク会議5回、自立支援型(事例検討型)地域ケア会議6回を開催しました。
- ②地域社会資源は、ケア会議にて地域にあるお店や公共機関やサロンの把握を行いました。
- ③生活介護支援サポーターの方には、フォローアップ研修を1回開催しました。サポーターの個別でのマッチングについては、現在のところ直接的には結びついていませんが、地域のサロンで活動していただきました。

【認知症高齢者等及び家族への支援】

認知症サポーター養成講座を3回開催しました。

(2) 権利擁護業務

【高齢者虐待への対応】

地域団体に対して出前講座を開催し、虐待とはどのような行為をいうのか、虐待の実像、虐待発生要因、早期発見のサイン、相談や通報窓口等について具体例を挙げて説明を行いました。

虐待通報には、市役所・病院・ケアマネジャー・サービス事業所など関係機関との情報共有や連携を図って高齢者および養護者支援にあたり、高齢者と養護者の安定した生活の実現にて終結を迎えた事例もありました。

虐待が疑われるケースについても、関係機関と情報共有を図り、訪問して状況把握に努め、関係機関との連携のもと虐待予防のための支援に取り組みました。

【成年後見制度等への対応】

相談内容に応じて、成年後見制度か日常生活自立支援事業かの見極めを行い、制度説明や津市社会福祉協議会などの窓口紹介を行いました。成年後見サポートセンターや日常生活自立支援センターとも連携を図り、必要に応じて同行訪問など対応を行いました。

【消費者被害】

地域住民対象に県内で発生している身近な被害状況を知っていただき、消費者啓発講座の資料を使用して自身のだまされやすさの傾向を理解し、具体的な防止策や相談窓口についてパンフレットを配布して周知啓発につとめました。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント業務

【包括的・継続的ケアマネジメント体制の構築】

地域ケア会議を通して、行政、民生委員、自治会長、地区社協、津社協、医師、保健センター、警察、消防、介護支援専門員等が参加し、各関係機関ができる限りの情報共有ならびに連携を行い、そういったシステムの構築に取り組んでいます。

【介護支援専門員に対する個別支援】

- ・介護支援専門員から困難ケースへの対応相談があり、同行訪問や地域ケア個別会議の開催、サービス担当者会議の事前打ち合わせ等の支援を行いました。
- ・エリア内の在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所の介護支援専門員を対象に、地域交流会を年に3回行いました。また、研修会も3回実施しました。

(4) 介護予防ケアマネジメント関連業務

各関係機関、地域の団体や住民、民生委員、自治会への介護予防普及啓発の取り組みについて広報を行い、新たな地域の介護予防組織の育成・支援の発掘および育成に取り組むことができるよう努めました。

今年度は11回の出前講座を実施しました。講話の内容や対象とする住民に応じてパンフレットやDVDを使用し、わかりやすく自らの生活習慣に取り入れられるような講座作りを実施しました。

講話だけでなく脳トレなど身体を使った体操も取り入れました。

3. 利用実績

介護予防給付担当件数

(平成 30 年度)

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
委託件数	支援 1	新規	9	8	8	5	4	6	5	10	7	8	6	6	82
		継続	113	118	125	125	122	128	128	129	135	137	138	140	1,538
	支援 2	新規	10	4	5	6	9	5	6	4	4	3	5	4	65
		継続	188	192	191	189	188	189	188	187	188	187	187	187	193
合 計			320	322	329	325	323	328	327	330	334	335	336	343	3,952
直営件数	支援 1	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
	支援 2	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	9	9	9	9	9	9	9	7	7	7	7	7	96
合 計			10	10	10	10	10	10	8	8	8	8	8	8	108
総 数														4,060	

介護予防給付委託内訳

(平成 31 年 3 月 31 日現在)

区分	支援区分	介護予防サービス計画				
		新規	継続	合計	委託総数	新規委託事業所数
委託件数	支援 1	82	1,538	1,620	3,952	3
	支援 2	65	2,267	2,332		
直営件数	支援 1	0	12	12	/	/
	支援 2	0	96	96		
合計		147	3,913	4,060		

年間相談対応件数

(平成 30 年度)

内容・形態/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総合相談	53	63	58	45	45	45	76	75	52	83	43	53	691
介護方法等	7	16	5	13	19	14	12	7	8	6	4	4	115
介護保険サービス	9	18	10	16	7	23	28	28	25	19	16	25	224
介護予防サービス	32	25	25	28	32	33	40	53	32	33	23	33	389
保健福祉サービス	3	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	5	11
ケアマネジメント	1	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	5
虐待・権利擁護	1	1	0	0	2	0	1	5	3	3	2	0	18
その他	2	0	1	5	8	6	7	5	4	5	1	3	47
合 計	108	123	99	109	114	121	165	173	124	151	90	123	1,500

平成30年度 社会福祉法人寿泉会
八幡園グループホーム（認知症対応型共同生活介護）事業実績報告書

1. 平成30年度の事業活動について

事業活動の概要について、ご利用者様にとって馴染みやすく穏やかな生活が送れる環境作りと、1ユニットのグループホームであるため在宅に近い感覚になれるような環境に留意しました。生活の中で楽しく笑いのたえない明るい環境を築きご家族様も自然と足を運びやすくなるようにイベントや推進会議を通じて来園の機会を作りました。イベントの際には個々のベストショットを撮るべく写真をたくさん撮り、自然の笑顔、嫌がりながらも一瞬みせる笑顔を記録として残すことができました。事業所内の壁には季節の行事写真を掲示することで面会時に見て、利用者様の表情や写真から想像する雰囲気などを感じ取って頂けました。

ご利用者様の健康管理についても看護師と連携を図りながら早期発見・早期対応に心掛け変化に注意したケアを実施しました。11月頃より風邪やインフルエンザの流行時期には利用者様、職員の手洗い・うがいを励行し感染防止に努めました。風邪症状の方は数名みえましたが大事に至ることなく早期受診対応ができ、拡大防止に繋がりました。

空調管理することで季節感が感じにくくなっていく傾向があり、季節の歌や壁面での飾り、散歩に出ることで外気に触れ五感で感じて頂くように取り組んみ、行事を通じて季節感が感じられるように四季折々の企画を実施しました。

2. サービス提供について

(1) 機能訓練（リハビリテーション）について

毎日の日課でラジオ体操やリズム体操を行い身体機能維持に努めました。

気候のよい時には近隣のお地蔵様まで散歩し季節感を感じつつ気分転換と機能維持訓練を行いました。（雨天の場合は施設廊下を往復、歩行訓練を実施）

(2) 日中活動（アクティビティサービス）について

余暇時間を活用し塗り絵や脳トレ、計算問題など短時間で達成可能なものを提供しました。繰り返し行う事で個々の能力維持、能力確認、興味の観察を行い継続的に実施をしました。

唱歌や昭和歌謡を皆で歌うことで自然と声を出し脳の活性化につながるよう支援をしました。

(3) 認知症ケアについて

認知症について、職員会議・検討会等で利用者個々の能力確認及び進行防止に向けた取り組みをスタッフ間で話し合いました。昼夜逆転傾向の方には昼間の離床時間を増やし、会話やレク、お手伝い（洗濯物たたみ等）など役割を持って頂きメリハリのある生活を送れるように支援を行いました。

また、認知症状の進行によりできること、できないことが増えてきている方には一つのことを最後まで達成できるように根気良く声掛けをすることで機能維持に努めました。実施状況、変化などについては適宜会議や申し送りなどで報告することで専門職・介護職員からの

意見を聞き対応・対処ができるように実施、修正を行いました。

(4) 口腔・栄養管理について

口腔ケアについて、朝夕の口腔ケアを促し習慣化しました。歯磨き、義歯の洗浄チェックをし口腔内を清潔に保つようケアを行いました。食事前には口腔体操を行うことにより誤嚥予防・口腔機能維持に努め、余暇時間では歌や会話により自然と声を出すことで嚥下機能の維持を目的に行いました。

栄養管理については、毎月の体重測定・食事量の観察を行い、体重減少や食事量の減少傾向にある方には管理栄養士と連携を図り食事形態の変更及び栄養補助食品の活用を検討しました。ご家族様に嗜好品（プリンやゼリーなど）口当たりの良いものを持参して頂く事やお小遣いより購入し摂取量が低下しないよう支援をしました。適宜、変化のみえる方については看護師、管理栄養士と連携を図り対策・改善に向け検討をしました。

(5) 感染症対策について

感染症の流行時期にはメディア等で情報を収集し職員会議で看護師を中心とした感染予防研修を行いました。感染予防に力を入れ「持ち込まない、うつさない」早期対応に心掛けました。1年を通じて手洗いやうがいの励行、風邪の流行時期には早期発見・早期対応に心がけ発症時には看護師と連携を図り重症化することなく早期受診などで対処をしました。また、二次感染の防止にも努めました。

(6) 事故抑止について

事故防止対策のため、インシデント・アクシデントシートを活用し事故の要因や対策についてスタッフ間で検証をしました。どうすれば防ぐことができ、どのように対策をすれば良いか、起こった後の対応について検証することで再発防止に努めました。転倒や服薬ミス（落薬）についてリスク管理を職員間で再周知することでケアの方向性を見直しケアプランにも反映をしました。認知症の進行、身体機能の低下等も考慮して安全かつ機能の維持ができることで事故の防止、危険性の明確化を図ることが出来ました。

3. 行事の実施について

(1) 施設全体行事（デイサービス合同行事）

年間行事：つ保育園交流会（年1回）

外部ボランティア（昭和歌謡、踊り、コーラスなど）…不定期開催

毎月行事：音楽療法（月2回）

ギター演奏（月1回）

ヘアーカット（月1回）

(2) ユニット行事

グループホーム独自の行事としては毎月担当を決めて3つの行事を企画。

① おやつ作り…毎月季節感が感じられる食材を使用。

② 施設内行事…施設内での行事を企画「入浴行事：菖蒲湯・柚子湯等」「家族参加型行事：忘年会」「フラワーアレンジメント・コサージュ作り等」

③ 外出行事…施設外での行事を企画「初詣・お花見・地域盆踊り・津まつり見学梅見ツアー等」

④ 不定期開催…利用者誕生会の実施。

天気や気候等の良い時には近所のお地蔵様まで散歩。

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

グループホーム運営会議開催：毎月第1水曜日に実施（年12回開催）

グループホーム運営推進会議開催：奇数月の第4水曜日に実施（年6回開催）

(2) 研修

グループホーム運営会議項目内に研修として勉強会を行う。

（不定期研修：接遇研修、看護師講師により感染予防対策【インフルエンザ等】、夜間想定訓練）

(3) 委員会（※施設系事業所及び通所事業所で委員会を設置している事業所）

グループホーム運営会議事項内にて報告及び検証。

- ・事故防止委員会（インシデント・アクシデント）
- ・身体拘束防止委員会
- ・感染予防対策委員会（感染症の流行時期前に実施）

5. コストに関する取り組みについて

空調温度・湿度・換気に注意し快適に過ごせるようにご利用者に合わせた調整に心掛けました。電気についても、休憩時間などで居室戻られた際にホール等の節電を心掛けるように職員に呼びかけ実行をしました。

残業については、職員間で協力し残業時間の減少を心掛け、声を掛け合うことで空いた時間を活用し、事務業務にあてる時間の確保に努めました。

6. 事業の稼働について

稼働率100%を目指し運営を行いました。入所者様の日々の健康管理を看護師が中心になって行い変化があれば早期発見・早期対応を行いご家族様と調整し病院受診を勧めました。2018年度は転倒により入院→退所が3件ありました。年間で6名のご利用者の入退所があり、入院中の空床、次候補者の調整により空床があり93.4%の稼働率で目標値に届きませんでした。入所申し込み者に対して定期的に待機者リストを確認準備していましたが受入状況やサービス変更等のタイミングが合わなかったことが要因と考えます。

7. 利用実績

(1) 利用者実績

区分	八幡園グループホーム	延利用者数計 平均稼働率
延利用者数	10	3,071
年間稼働率		93.4%

(2) 入退所状況（再入所を含む。）

八幡園グループホーム					
区分	入所	退所			
		死亡	入院	在宅	他施設
男	2	0	0	0	0
女	4	1	4	0	1
計	6	1	4	0	0
		6			

(3) 年齢別利用者数（平成 30 年度末現在）

区分	64歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	合計	平均年齢 (歳)
八幡園 G H	男	0	0	0	0	2	0	2	88.0歳
	女	0	0	0	0	2	2	7	90.0歳
	計	0	0	0	0	2	2	9	89.6歳
	%	-	-	-	-	22.2%	55.6%	22.2%	

(4) 在籍期間別利用者数（平成 30 年度末現在）

区分	14日以内	15日～1月	1～3月	3～6月	6月～1年	1～2年	2年以上	合計
八幡園 G H	男	0	0	0	0	2	0	2
	女	0	1	2	0	1	0	7
	計	0	1	2	0	3	0	9
	%		11.0%	22.2%		33.4%		33.4%

(5) 要介護度別利用者数（平成 30 年度末現在）

区分	八幡園グループホーム	計
要介護 1	2	2
要介護 2	2	2
要介護 3	2	2
要介護 4	1	1
要介護 5	2	2
計	9	9

平均介護度	2.9	
-------	-----	--

(6) 認知度別利用者数 (平成 30 年度末現在)

区分	八幡園グループホーム	計
Ⅲ未満	2	2
Ⅲ以上	7	7
計	9	9

(7) 利用者の食事形態 (平成 30 年度末現在)

ア) 主食形態

区分	普通	軟飯	全粥	ミキサー	特別療養食	経管栄養	計
八幡園GH	6	1	0	2	0	0	9
計	6	1	0	2	0	0	9

イ) 副食形態

区分	普通	きざみ	超きざみ	ミキサー	特別療養食	経管栄養	計
八幡園GH	5	1	1	2	0	0	9
計	5	1	1	2	0	0	9

(8) 利用者の生活状況 (平成 30 年度末現在)

ア) 食事

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
八幡園GH	6	1	2	9
計	6	1	2	9

イ) 移動

区分	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
八幡園GH	3	4	0	2	9
計	3	4	0	2	9

ウ) 入浴

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
八幡園GH	0	6	3	9
計	0	6	3	9

エ) 着脱

区分	自力	一部介助	全介助	計
八幡園GH	4	2	3	9
計	4	2	3	9

オ) 排泄

区分	自力	一部介助	全介助	計
八幡園GH	4	2	3	9
計	4	2	3	9

カ) おむつ使用（リハビリパンツ使用者）

区分	常時使用	夜間使用	計
八幡園GH	7	1	8
計	7	7	

※リハパン使用なし1名

※巻オムツの使用者は0人

(9) 平成30年度実施行事

行事実施月及び行事名等	
4月	桜見学、フラワーアレンジメント・おやつ作り（桜餅作り）
5月	菖蒲湯・おやつ作り（母の日：ホットケーキ）・おやつ作り（三色だんご）
6月	女子会（ココスにてデザートを食べに行く）・紫陽花見学・おやつ作り（緑茶パンナコッタ）
7月	七夕行事・津花火大会見学・おやつ作り（納涼ゼリー）
8月	八幡町親睦納涼夏祭り（地域の盆踊りに参加）・コップに絵付け体験・おやつ作り（ラムネ）
9月	運動会・寿司ツアー・敬老会・おやつ作り（おはぎ）
10月	津まつり見学・ハロウィン行事・おやつ作り（ゼリーデコ）
11月	みかん狩り・お茶会・おやつ作り（ラスク）
12月	忘年会・柚子風呂・おやつ作り（クリスマスケーキ）
1月	餅つき・結城神社へ初詣・おやつ作り（しるこ）
2月	節分まつり・手作り教室：コサージュ作り・おやつ作り（バレンタインデー）
3月	ひなまつり・結城神社へ梅見ツアー・おやつ作り（2種ゼリー）
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外出、園内行事を企画し季節感を感じて頂けるようにしております。気候が良い時には散歩をしたり外へ目を向けております、暑さ・寒さの時には園内での行事が中心となりますが家族や職員と一体となり楽しく面白く行事を行っております。 ・ 毎月おやつ作りを企画し皆で一緒に作成し召し上がって頂く。

平成30年度 社会福祉法人寿泉会
八幡園デイサービスセンター事業実績報告書

1. 平成30年度の事業活動について

今年度における事業活動全般について、専門職間の連携意識を高めることで、利用者ニーズを導き出しチームとして検証、ケアの見直しを適宜実施しました。

専門職（理学療法士・看護師）の在宅訪問、サービス担当者会議などの参加により他事業所との連携を図る機会も持ち同時に情報交換を行なうことでよりよいサービスに繋がられるように努めました。専門職が実際に在宅生活の状況を確認・把握することで生活状況の確認ができリハビリへの方向性を見つけることができました。各職種で情報を共有する事で在宅生活を維持できるために何をすべきか、ケアマネージャーや家族、他事業者との連携により支援計画をたてその方にあった支援を実施しました。

本人様のニーズを把握しながら問題点、改善点の把握確認を行ない実施状況については適宜家族とケアマネージャーへの報告・連絡・相談を常に心掛けて取り組んできました。

リハビリがあるデイサービスという特色を知って頂きケアマネージャーよりご家族様にご紹介して頂けるケースが増えると共に相談を受ける件数も増えました。

2. サービス提供について

理学療法士による個別機能訓練加算Ⅱを算定し、リハビリの必要性の高い方、算定要件に対象の方に応じた個別機能訓練を本人や家族様と相談し、理解を得てリハビリを実施しました。疼痛緩和器具（ホットパック）の導入において必要箇所に使用することで疼痛緩和やマッサージにつながりリハビリの満足度を向上させる目的で使用しました。

入浴については、設備面で寝浴・リフト浴といった機器の充実があるも寝浴を活用する対象者がみえませんでした。車椅子使用でリフト浴での対応依頼があり、曜日によって人数の偏りがあり利用状況の把握をしながら希望利用者の受入調整を行いました。

各曜日での受入状況は均等性を保てたが、送迎時間の調整や入浴時間の調整に偏りがあつた為、順番等で利用者様を困らせてしまう場面もありました。その都度職員間で問題点の改善について検討しながら実施・調整を行いました。

次年度に向けて広報活動を行いしっかりと寝浴対象者を受け入れる準備ができていることについて幅広くアナウンスを行います。

曜日によって活動内容が違うため、体験・新規利用の際にご利用者様にとって馴染みやすい環境を提案させて頂きました。音楽療法や麻雀等の実施日をケアマネージャーにも情報提供し、利用者様の要望を把握するところで楽しみや生きがい、その人らしさを考えて曜日の提案をさせて頂きました。

生活環境においてはレク等の充実化を図り、季節の壁面や手芸など利用者同士での会話を目的の一つの作品作りを行いました。

(1) 機能訓練（リハビリテーション）について

リハビリ希望者については、リハビリの必要性をアセスメントしご利用者のニーズを踏

まえ実施内容に反映させ、実施計画書を各職種間で協力作成しました。理学療法士（機能訓練指導員等）を中心に専門職で実施内容の評価を行い継続・変更を適宜行うことで目標に近づけるように支援しました。ご自宅での生活状況については利用者宅訪問やサービス担当者会議の参加などで生活評価や家屋調査を行いました。家屋調査の結果によって目標の変更やリハビリメニューの再アセスメントを行いました。又、送迎時に介護職員からの情報提供により家屋状況の変化があれば再び訪問し、生活状況を確認した上で解決策の提案を行いました。ご利用者様の報告も兼ねて居宅へ訪問し実施内容の報告及び情報提供を行ないました。

（２）日中活動（アクティビティサービス）について

入浴時間や休憩時間などで空いた時間帯を活用し、壁面作りや手作業を継続的に実施させて頂きました。作品づくりについては、利用者様からの要望や意見等を吸い上げるものなかなか決まらず職員からの提案となりがちでインターネットや本を活用し季節の作品作りを行って頂きました。

季節感のある作品作りを行う事により、利用する楽しみややりがいが出来たという利用者様からの声がありこれからも作品づくりに関わりたいという方も増加しました。

午前・午後と集団体操、ホワイトボードを活用した脳トレなど全員行なって頂きました。脳トレについては常に変化を目指して実施しましたがマンネリ化されたサービスが継続される場面もありました。変化を求めるとも歌や手遊び交えながら色んなカテゴリーを考えながら行うように取り組みました。

（３）認知症ケアについて

認知症へのケアについては「その人らしさ」の意識を持ち、あらゆる場面で介助を行う際に寄り添うケアを目指しました。

集団ケアとしては座席のテーブル配置により慣れた場所や落ち着く環境を意識して座席を各職員で話し合いながら観察して決めてきました。

行動パターンや認知行動観察を行いながら集団もしくは個別支援で対応させて頂きました。集団では脳トレやリズム体操・音楽療法・ギター演奏などで五感を感じながら取り組んで頂きました。

個別ケアとしては帰宅願望のある方に対して「何故このような行動に至るのか」を生活暦から遡りアセスメントし、関わってきた環境・人物・医療など広範囲を知ることにより各専門職種間で情報を共有し検証をしました。介護としては訴え時の接し方や様子、「なぜ帰りたいのか」を傾聴することで「何を訴えたいのか」を知ること注目し、心身・精神面での変化を捉えることを大事に取り組みました。看護師について薬剤情報や既往歴によるものなのかを検証し内服薬の副作用や病的な進行にも着目することで医学的管理を行い進行の把握を行いました。相談員としては在宅生活の状況や家族様との関係性など困り事がないか、生活パターンの把握から問題点の抽出を行ないました。家族様からの情報や他介護サービス事業者からの情報を共有し観察を行いました。

プライバシー（入浴・排泄）面での配慮にも取り組んで頂きました。介護に対して強い拒否がある方に寄り添いながらケアをすることにより信頼関係を築き、ご本人様の意向に沿ったサービスが提供できるように声かけしながら支援しました。利用者様個人に応じたケア

方法を職員間で情報を共有する中で見つけ、関わることで入浴や排泄面での拒否が少しでも減少したように思います。担当ケアマネージャーと連携を図りながら通所利用が継続的に出来るように情報交換を行いました。

生活や環境、家族等の状況を職員全体で情報共有する場を設け、声掛けのタイミング、接し方のコツを検証し周知することでケアの統一化を図ることが出来ました。

(4) 口腔・栄養管理について

口腔機能：昼食前には口腔体操の実施により誤嚥予防および嚥下機能の向上に努めました。食後には口腔ケアの必要性が高い方に看護師が口腔内の清掃及び口腔内の確認を行い定期的に評価を行いました。予防的に実施されている方もみえ見守りで状態観察を行い必要時には家族様・ケアマネージャーへと情報提供し継続的に実施しております。

栄養管理：管理栄養士によるカロリー計算された食事の提供を行い、糖尿食や食べやすい形態に変更するなど個々に応じた内容で提供をしております。食事量摂取量や体重減少が著しい方に関しては家族やケアマネージャーに相談し医師への相談を促しました。また、専門職と相談し食事形態、内容を考慮して食事内容の変更を検証しました。

状態変化においては各専門職が迅速に相談できる関係性を築き、その方に応じた形態での提供ができるように周知・徹底を行いました。

(5) 感染症対策について

感染症対策について、定例会議にて看護師が講師となり風邪の流行時には感染防止の注意喚起を行いました。感染症流行時には初期症状や体調変化時の観察項目について注意すべき点を周知しました。また送迎時に変化があった際には独自で判断するのではなく相談し指示を仰ぐように周知しました。消毒方法、環境面清掃の指導方法についても勉強会を開催し職員へ周知しました。

体調の変化時には家族、介護支援専門員との連携を密にすることで早期対応ができるように働きかけました。家族様や介護支援専門員からも在宅時での変化や病状の進行状況などの報告を頂く事により早期受診に繋げる事が出来ました。

(6) 事故抑止について

ひやりはっと→インシデント・アクシデントシートに変更し事故発生時には要因や対策を検討会で報告することで、検証・改善・再発防止・周知をチームで共有しました。

インシデントでは気付いた点から起こりうるリスクを検証することでアクシデントに繋がらないよう未然防止に努めています。アクシデントでは実際に起こってしまった事故について何故起きたのか、どうしたら防ぐことができたのかを再発防止に向けた検証を行ないました。

3. 行事の実施について

施設全体行事（グループホーム合同行事）

年間行事：つ保育園交流会（年1回）

外部ボランティア（メルヘンマジック、昭和歌謡、踊り、コーラスなど）

…不定期開催

毎月行事：音楽療法（月2回）
ギター演奏（月1回）
ヘアーカット（月2回）

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

- ・ デイサービス会議 毎月実施（第3水曜日）
- ・ 施設内管理者会議…施設運営について3ヶ月1回にて実施。人事や施設周知など
- ・ レク会議…ボランティア調整や行事活動・レク会議（壁面や軽作業検討）3月/1回
- ・ 事故防止検討会議…インシデント・アクシデント事例も含めた事故予防に努めており、報告書類等の整理を行い未然に防止・事故の再検証を行いました。3月/1回
- ・ 感染予防検討会議…ノロウィルスやインフルエンザ等感染症流行時に知識・対策等のリスク管理を看護師が中心となりと連携を図り、周知・徹底・意識化しました。（季節変わり目により随時）

(2) 研修

デイサービス職員内での介護技術研修などに取り組みました。介助の難しい利用者様を想定して各職種でケアの方法、注意すべき点を検証しながら行いました。

5. コストに関する取り組みについて

(1) 職員の不注意や環境整備不足による物品の破損について破損物への確認を行い、破損した要因を明らかにし適切に使用できるように周知を継続しました。

(2) 施設消耗品についての適正な利用・購入について

施設消耗品について、コスト削減に目を向け他社との比較を行い購入しました。コストを抑えることでサービスの質（品質）の低下につながるようなことがないように製品を変更した際には使用方法や品質を確認し、実際に使用できるかを検証しました。

6. 事業の稼働について

平成30年度につきましては、通常規模通所介護事業所で定員数30名に変更しました。年間稼働率80%以上の数値目標に掲げ運営を行なってきました。加算部分で理学療法士の配置が週4回から週5回にも増えた事により加算算定が前年度よりも増えました。リハを効果的に活用してきました。営業活動においても事業所のPR活動を継続して、新規獲得への相談も前年度よりも増加することができました。

ご利用者の欠席理由として①自己都合 ②ショート ③入院 ④その他（入所・廃止）といった傾向が見られ①に関しては振替利用や追加利用も声かけしアプローチを図りました。欠席者への連絡や訪問を継続して最小限に抑えるように取り組みましたが、結果として年間稼働率は79.1%でした。

7. 利用実績

(1) 利用者実績

		開所 日数	延べ 利用者数	平均 利用者数	登録者数（予防）		平均 介護度
					男性（予）	女性（予）	
					合計		
平成 30 年度	4月	25日	538人	21,5人/日	29(0)人	31(8)人	1,6
						60(8)人	
	5月	27日	591人	21,9人/日	29(0)人	34(11)人	1,6
						63(11)人	
	6月	26日	598人	23,0人/日	27(0)人	30(12)人	1,7
						57(12)人	
	7月	26日	602人	23,2人/日	27(0)人	29(12)人	1,6
						56(12)人	
	8月	27日	674人	25,0人/日	25(1)人	33(14)人	1,6
						68(15)人	
	9月	25日	564人	22,6人/日	26(1)人	31(14)人	1,7
						57(9)人	
	10月	27日	671人	24,9人/日	23(1)人	31(13)人	1,8
					54(9)人		
11月	26日	593人	24,8人/日	22(1)人	31(13)人	1,9	
					53(8)人		
12月	24日	560人	22,8人/日	23(1)人	30(12)人	1,8	
					53(13)人		
1月	24日	573人	21,2人/日	20(0)人	29(14)人	1,8	
					49(14)人		
2月	24日	595人	24,8人/日	23(0)人	33(15)人	1,9	
					55(15)人		
3月	26日	623人	24,0人/日	23(0)人	34(14)人	1,9	
					57(14)人		
年度 合計	合計 307	延べ 7182人	年間平均 23,3 人/日		297(5)人	376(90)人	平均 1,7
					673(95)人		

(2) 年齢別利用者数 (平成 30 年度末現在)

	64 歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90 歳以上	合計	平均年齢 (歳)
男	0	0	2	3	10	5	3	23	83.1
女	0	0	4	8	8	8	20	48	86.3
計	0	0	6	11	18	13	23	71	82.8
%	0	0	8.4	15.5	25.4	18.3	32.4	100	—

(3) 介護度別世帯状況 (平成 30 年度末現在)

区 分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援 1	4	0	0	0
要支援 2	6	0	0	3
要介護 1	11	2	6	5
要介護 2	2	5	2	6
要介護 3	1	0	0	7
要介護 4	0	4	1	3
要介護 5	0	1	1	1

(4) 利用者の生活状況 (平成 30 年度末現在)

食事	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	19	51	1	71	
移動	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
	16	34	8	13	71
入浴	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	17	5	1	71	
着脱	自力	一部介助	全介助	計	
	3	58	10	71	
排泄	自力	一部介助	全介助	計	
	49	19	3	71	
おむつ・リハビリパンツ等使用	常時使用	夜間のみ使用	計		
	26	—	26		

(5) 年間の行事等 (平成 30 年度)

行事実施月及び行事名等	
4 月	
5 月	
6 月	つ保育園交流会
7 月	
8 月	流しそうめん
9 月	
10 月	
11 月	
12 月	忘年会 クリスマス会 、ボランティア来園行事 (ムーチョ赤井、美津佳会、メルヘンマジック)
1 月	お茶会
2 月	
3 月	
備考	音楽療法 (月 2 回 月・土) ギター演奏 (月 1 回)

平成30年度 社会福祉法人 寿泉会 津中部東地域包括支援センター事業実績報告書

1. 平成30年度の事業活動について

- ①各支援業務について、市の委託事業内容に関して昨年度同様に事業展開を行いました。
- ②前年度は地域ケア会議に力を入れていくため、年間に12回を目安に行いました。
- ③地域の特性を探るため、平成29年度の相談内容から、地域ごとにどのような相談が多いのか分析を行い、見えてきた問題についてケア会議を行いました。
- ④各地域の課題は見えてきましたが、課題の解決までは至りませんでした。

2. 各支援業務について

(1) 総合相談支援業務

- ①地域の方々に包括支援センターを身近に感じていただくために、出前講座を年間36回行い、包括支援センターの役割や季節に合った内容の講座を行いました。
- ②相談受付については、職員全員が対応できるように相談票を作成し、回覧するとともに翌朝の申し送り時に情報の共有を図りました。
- ③困難事例等については、関係機関が集まり、ケア会議を開催し情報共有や適切な対応の方向性について検討を行いました。

(2) 権利擁護業務

定期的に行っている出前講座にて、資料を使いながら虐待における気づきのポイントや発見時の相談先等の理解を深め、早期発見につながるように説明を行いました。

虐待が疑われるケースについては、関係機関と連携を図りながら、状況把握を行い迅速に対応を行いました。

成年後見制度については、相談者に対して制度の説明を行い、成年後見サポートセンターと連携を図りながら対応を行いました。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント業務

個別地域ケース会議4回開催し、関係者の情報を共有したうえで、支援の方向性の検討を行いました。また、地域ケアネットワーク会議を担当の3地区において春と冬に計6回開催し、地域課題の検討を行いました。

自立支援個別ケア会議年間4回を行い、講師の先生をお招きし、研修形式で事例検討を行いました。生活・介護支援サポーターフォローアップ研修を開催し、17名の方に参加していただきました。

(4) 介護予防ケアマネジメント関連業務

定期的に4団体を対象に、『運動』『食事』『医療』等について年間36回出前講座を行いました。講話だけでなく脳トレや身体を使った体操も取り入れました。

各関係機関に介護予防普及啓発の取り組みについて広報を行い、地域において自発的な介護予防団体の育成に繋げるよう努めました。

3. 利用実績

介護予防給付担当件数

(平成 30 年度)

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
委託件数	支援 1	新規	6	7	12	4	5	3	6	7	4	7	6	3	70
		継続	109	113	114	125	122	127	129	129	133	134	132	139	1,506
	支援 2	新規	10	8	9	7	5	4	5	4	6	3	1	5	67
		継続	125	128	134	135	142	143	147	148	153	158	147	149	1,709
事業対象者 新規			2	2	0	0	1	0	1	0	2	1	0	0	9
事業対象者 継続			6	8	11	11	11	11	11	13	11	11	13	12	129
合 計			258	266	280	282	286	288	299	301	309	314	299	308	3,490
直営件数	支援 1	新規	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
		継続	4	4	4	5	5	5	4	4	4	3	4	3	50
	支援 2	新規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		継続	7	7	8	7	7	7	7	7	7	6	6	5	81
事業対象者 新規			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事業対象者 継続			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計			11	11	14	12	12	12	11	11	12	9	10	8	126
総 数														3,616	

介護予防給付委託内訳

(平成 31 年 3 月 31 日現在)

区分	支援区分	介護予防サービス計画				
		新規	継続	合計	委託総数	新規委託事業所数
委託件数	支援 1	70	1,506	1,576	3,490	10
	支援 2	67	1,709	1,776		
	事業対象者	9	129	138		
直営件数	支援 1	2	50	52	/	/
	支援 2	0	81	81		
	事業対象者	0	0	0		
合計		148	3,475	3,623		

年間相談対応件数

(平成 30 年度)

内容・形態/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総合相談	51	63	47	88	80	66	90	82	87	75	67	85	881
介護方法等	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
介護保険サービス	7	9	5	7	9	9	15	11	4	15	4	7	102
介護予防サービス	29	16	14	23	20	29	34	30	15	24	17	19	270
保健福祉サービス	3	1	2	0	5	0	0	3	2	3	8	1	28
ケアマネジメント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
虐待・権利擁護	0	1	3	1	6	3	0	0	0	0	0	3	17
その他	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
合 計	90	91	71	121	120	107	139	127	108	117	96	115	1,302

平成30年度 社会福祉法人寿泉会 万葉の里老健事業実績報告書

1. 平成30年度の事業活動について

平成30年度は前年度と同様に稼働率を上げるため、地域の病院や居宅支援事業所に空床状況を伝え、相談を頂けるようにしました。入院空床も病院などにご利用者の状態を聞き取り、ショートステイで空床利用できるよう調整しました。

また、平成30年度の介護保険改定に伴い、在宅復帰・在宅療養支援機能に対する評価に沿って、在宅復帰率とベッド回転率の向上にも努め、在宅復帰支援加算の算定が出来ました。

反省点としては、在宅復帰率は前年度より向上しましたが、26.5%の在宅復帰率となっており、それに伴い稼働率が前年度を下回ってしまった点が反省点となります。今後は目標稼働率の達成と在宅復帰率の向上を目指していくよう努めます。

2. サービス提供について

(1) 機能訓練（リハビリテーション）について

ご利用者のニーズに合わせ、在宅や施設で生活ができることを目標に、ご利用者の心身機能・希望に添ったリハビリプログラムを作成しております。日常生活が過ごしやすいよう環境調整を行っております。また、ご利用者の心身機能を評価しリハビリ実施計画書へ反映させご家族への情報提供も行いました。

(2) 日中活動（アクティビティサービス）について

ご利用者の心身の状況や本人の意向を尊重しながら、季節を感じ楽しめる企画を立案し、日中活動や余暇活動を提供しました。

(3) 認知症ケアについて

認知症の理解を深め、行動観察からご利用者の「出来ること、わかる事」に着目し、行動範囲の拡大と、ニーズを汲み取りサービスに反映してサービスの提供に努めました。

(4) 口腔・栄養管理について

ご利用者の嚥下評価を行い、個々に応じた食事形態を提供しております。また、食に関する行事等を行い食欲増進に繋がる環境整備を行っています。褥瘡があるご利用者には褥瘡委員会と協力・連携し、栄養補助食品の提供も行っています。便秘の改善・対策として水分補給の促しや食物繊維の強化、栄養補助食品の提供を行いました。

(5) 感染症対策について

感染衛生管理委員会を年6回開催しており、委員会主催で事業所内にて感染症に係る研修を行いました。

(6) 事故抑止について

インシデント・アクシデント報告の内容を整理して、チームで対策・防止策を検討し、また事故防止委員会でも事故を未然に防ぐために勉強会を開催しました。

3. 行事の実施について

(1) 施設全体行事

月	行事名
9月	秋祭り

(2) ユニット行事

月	行事名
4月	花見
5月	端午の節句
6月	七夕飾り作り
7月	七夕
9月	敬老会
10月	運動会
12月	忘年会
1月	
2月	節分
3月	ひなまつり

サークル活動（月2回）実施。

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

- ①運営会議（月1回）：管理者及び専門職の代表者の施設運営に関する会議
- ②サービス担当者会議（月1回）：施設内での情報共有及び検討
- ③介護L・UL会議（月1回）：ユニットリーダー職以上の介護内容に関する会議
- ④介護会議（月1回）：事業所内の介護内容に関する会議
- ⑤CS・ES会議（月1回）：顧客満足・従業員満足に関する会議

(2) 研修

- ①感染症に係る研修（年2回）：感染症予防及びまん延防止のため
 - ②コンプライアンス研修（年1回）：法令遵守のため
 - ③事故防止に関する研修（年1回）
 - ④権利擁護（身体拘束・人権）に関する研修（年1回）
- その他、生涯研修等、外部研修への参加も行っています。

(3) 委員会 (※施設系事業所及び通所事業所で委員会を設置している事業所)

- ①身体拘束委員会 (月/1回) : 身体拘束に関わる内容の検討
- ②安全衛生委員会 (月/1回) : ノロウイルスやインフルエンザ、食中毒等の感染症予防及びまん延防止に関する啓発、マニュアル見直し
- ③事故委員会 (月/1回) : ヒヤリハット事例も含めた事故予防・再発防止策の検討
- ④褥瘡防止委員会 (月/1回) : 褥瘡の予防・再発防止策の検討。
- ⑤防災委員会 (月/1回) : 施設内の防火管理に対することや防災対策の検討
- ⑥行事委員会 (年/5回) : 施設行事の立案・実行
- ⑦感染衛生管理委員会 (年/7回) : ノロウイルスやインフルエンザ、食中毒等の感染症予防対策の検討
- ⑧権利擁護虐待防止委員会 (年/2回) : 権利擁護に関わる内容の検討

5. コストに関する取り組みについて

施設の機器等の経年劣化に伴い、修理、買換えを法人とも相談しながら対応しました。

6. 事業の稼働について

平成 30 年度の稼働率は 94.0% でした。

入所の空床を短期入所事業と協力し、可能な範囲で空床利用に努めました。

7. 利用実績

(1) 利用者実績

区分	老健万葉の里
延利用者数	32,959
年間稼働率	94.0%

(2) 入退所状況 (再入所を含む。)

老健万葉の里					
区分	入所	退所			
		死亡	入院	在宅	他施設
男	40	1	16	11	8
女	64	8	43	15	11
計	104	9	59	26	19
		113			

(3) 年齢別利用者数 (平成 30 年度末現在)

区分	64歳以下	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90歳以上	合計	平均年齢(歳)	
老健万葉の里	男	0	2	3	3	5	4	9	26	85.3
	女	1	1	0	2	11	20	23	58	88.0
	計	1	3	3	5	16	24	32	84	86.7
	%	1.1	3.6	3.6	6.0	19.1	28.5	38.1		—

(4) 在籍期間別利用者数 (平成 30 年度末現在)

区分	14 日以内	15 日~1 月	1~3 月	3~6 月	6 月~1 年	1~2 年	2 年以上	合計
老健万葉の里	男	0	1	5	3	3	11	26
	女	1	2	9	5	6	21	58
	計	1	3	14	8	9	32	84
	%	1.2	3.6	16.7	9.6	10.7	38.0	

(5) 要介護度別利用者数 (平成 30 年度末現在)

区分	老健万葉の里
要介護 1	4
要介護 2	18
要介護 3	25
要介護 4	25
要介護 5	12
計	84
平均介護度	3.27

(6) 認知度別利用者数 (平成 30 年度末現在)

区分	老健万葉の里
Ⅲ未満	42
Ⅲ以上	42
計	42

(7) 利用者の食事形態 (平成 30 年度末現在)

ア) 主食形態

区分	普通	軟飯	全粥	ミキサー	特別療養食	経管栄養	計
老健万葉の里	13	24	35	10	0	2	84
計	13	24	35	10	0	2	84

イ) 副食形態

区分	普通	きざみ	超きざみ	ミキサー	特別療養食	経管栄養	計
老健万葉の里	15	33	24	10	0	2	84
計	15	33	24	10	0	2	84

(8) 利用者の生活状況 (平成 30 年度末現在)

ア) 食事

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
老健万葉の里	41	33	10	84
計	41	33	10	84

イ) 移動

区分	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
老健万葉の里	7	49	19	9	84
計	7	49	19	9	84

ウ) 入浴

区分	自力・見守り	一部介助	全介助	計
老健万葉の里	7	54	23	84
計	7	54	23	84

エ) 着脱

区分	自力	一部介助	全介助	計
老健万葉の里	6	60	18	84
計	6	60	18	84

オ) 排泄

区分	自力	一部介助	全介助	計
老健万葉の里	4	60	20	84
計	4	60	20	84

カ) おむつ使用

区分	常時使用	夜間使用	計
老健万葉の里	43	18	61
計	43	18	61

(9) 平成 30 年度実施行事

行事実施月及び行事名等	
4 月	花見
5 月	端午の節句
6 月	七夕飾り作り
7 月	七夕
8 月	流しそうめん
9 月	秋祭り、敬老会
10 月	運動会
11 月	
12 月	クリスマス会、忘年会
1 月	
2 月	節分
3 月	ひな祭り
備考	いきいき活動サークル（月 1 回）、味わいサークル（月 1 回）

**平成30年度 社会福祉法人寿泉会
万葉の里短期入所療養介護事業実績報告書**

1. 平成30年度の事業活動について

平成29年度の目標達成を踏まえて、平成30年度も営業を月の初旬と中旬で活動しました。各事業所からは認知症棟を利用したいという声を多く頂いたこともあり、9月より一般棟ショート部屋を3から2に削減し、認知症棟を1から2へ増やして事業にあたっております。反省として、現利用者のニーズには応えることや新規利用者の獲得は前年度と同じくらい獲得出来ました。

2. サービス提供について

(1) 機能訓練（リハビリテーション）について

ご利用者様のニーズに合わせ、在宅や施設で生活ができることを目標に、ご利用者様の心身機能・希望に添ったリハビリプログラムを作成しております。日常生活が過ごしやすいよう環境調整を行っております。また、ご利用者様の心身機能を評価しリハビリ実施計画書へ反映させ家族様への情報提供も行いました。

(2) 日中活動（アクティビティサービス）について

ご利用者様の心身の状況や本人の意向を尊重しながら、季節を感じ楽しめる企画を立案し、日中活動や余暇活動を提供しました。

(3) 認知症ケアについて

認知症の理解を深め、行動観察からご利用者様の「出来ること、わかる事」に着目し、行動範囲の拡大と、ニーズを汲み取りサービスに反映してサービスの提供に努めました。

(4) 口腔・栄養管理について

ご利用者様の嚥下評価を行い、個々に応じた食事形態を提供しております。また、食に関する行事等を行い食欲増進に繋がる環境整備を行っております。褥瘡があるご利用者様には褥瘡委員会と協力・連携し、栄養補助食品の提供を行っております。便秘の改善・対策として水分補給の促しや食物繊維の強化、栄養補助食品の提供を行っております。

(5) 感染症対策について

感染衛生管理委員会を年6回開催しており、委員会主催で事業所内にて感染症に係る研修を行いました。

(6) 事故抑止について

インシデント・アクシデント報告の内容を整理して、チームで対策・防止策を検討し、また事故防止委員会でも事故を未然に防ぐために勉強会を開催しております。

3. 行事の実施について

(1) 施設全体行事

月	行事名
9月	秋祭り

(2) ユニット行事

月	行事名
4月	花見
5月	端午の節句
6月	七夕飾り作り
7月	七夕
9月	敬老会
10月	運動会
12月	忘年会
1月	
2月	節分
3月	ひなまつり

サークル活動（月2回）実施しています。

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

- ①運営会議（月1回）：管理者及び専門職の代表者の施設運営に関する会議
- ②サービス担当者会議（月1回）：施設内での情報共有及び検討
- ③介護L・UL会議（月1回）：ユニットリーダー職以上の介護内容に関する会議
- ④介護会議（月1回）：事業所内の介護内容に関する会議
- ⑤CS・ES会議（月1回）：顧客満足・従業員満足に関する会議

(2) 研修

- ①感染症に係る研修（年2回）：感染症予防及びまん延防止のため
- ②コンプライアンス研修（年1回）：法令遵守のため
- ③事故防止に関する研修（年1回）
- ④権利擁護（身体拘束・人権）に関する研修（年1回）

その他、生涯研修等、外部研修への参加も行っています。

(3) 委員会

- ①身体拘束委員会（月/1回）：身体拘束に関わる内容の検討
- ②安全衛生委員会（月/1回）：ノロウイルスやインフルエンザ、食中毒等の感染症予防及びまん延防止に関する啓発、マニュアル見直し
- ③事故委員会（月/1回）：ヒヤリハット事例も含めた事故予防・再発防止策の検討
- ④褥瘡防止委員会（月/1回）：褥瘡の予防・再発防止策の検討。
- ⑤防災委員会（月/1回）：施設内の防火管理に対することや防災対策の検討
- ⑥行事委員会（年/5回）：施設行事の立案・実行
- ⑦感染衛生管理委員会（年/6回）：ノロウイルスやインフルエンザ、食中毒等の感染症予防対策の検討
- ⑧権利擁護虐待防止委員会（年/2回）：権利擁護に関わる内容の検討

5. コストに関する取り組みについて

施設の機器等の経年劣化による故障については、修理コスト等を検討し、買換えが妥当性等を勘案して判断を行いました。

6. 事業の稼働について

- ・平成30年度稼働率・・・107.7%
- ・今年度は新規獲得人数が前年度と変わりませんでした。定期で利用して頂ける方が増えたこと、入院で空いた居室をショートで利用して頂けた事が今年度は上手くいったと思われま。ただ、入院空床が利用して頂いた以上に多かったため、本当ならば獲得した稼働率以上の数字をショートで補わなければならないと考えます。

7. 利用実績

(1) 利用者実績

区分	万葉の里 短期療養介護事業所
延利用者数	1567
年間稼働率	107.7

(2) 年齢別利用者数（平成30年度末現在）

区分	64歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	合計	平均年齢(歳)	
万葉の里	男	0	0	0	1	3	2	1	7	85.5
	女	0	0	0	3	1	3	2	9	85.3
短期療養	計	0	0	0	4	4	5	3	16	85.4
	%	0	0	0	25	25	31.3	18.7	100	—

(3) 要介護度別延べ利用者数

区分	万葉の里 短期療養介護事業所 (実人数)	延べ利用者数
要支援 1	0	0
要支援 2	0	0
要介護 1	10	405
要介護 2	12	308
要介護 3	14	521
要介護 4	9	161
要介護 5	5	144
計	50	1539
平均介護度	2.6	2.6

(4) 介護度別世帯状況 (平成 30 年度末現在)

区 分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援 1	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0
要介護 1	2	1	1	2
要介護 2	0	2	3	0
要介護 3	1	2	0	0
要介護 4	0	0	0	1
要介護 5	0	1	0	0

(5) 認知度別利用者数 (平成 30 年度末現在)

区分	万葉の里 短期療養介護事業所
Ⅲ未満	11
Ⅲ以上	5
計	16

平成30年度 社会福祉法人寿泉会
万葉の里通所リハビリ事業実績報告書

1. 平成30年度の事業活動について

利用者様・家族様に対して、在宅生活上のニーズを確認し、介護及び療養上のアドバイスや身体機能の維持・向上へ向けた日常生活上の助言を、理解しやすいよう懇切丁寧に行った。質の高いサービスが提供出来るよう他職種の方々と情報共有を行い、運動やリハビリテーションにより利用者様の在宅生活が維持出来るよう身体機能の維持・向上出来るよう取り組みました。

又、年間の取り組みとして波瀬文化祭への作品出展を目指し、全ご利用者を対象として作品作りを行いました。物作りを通してご利用者の地域への社会参加・関わりができることを大切に運営をしました。

2. サービス提供について

(1) 機能訓練（リハビリテーション）について

ご利用者の身体機能・ニーズに合わせて「活動と参加」を中心にリハビリテーションを実施しました。機能維持を目標とするグループ(リハビリマネージメント加算Ⅰ算定)は機能訓練を中心に運動を実施し、具体的な生活目標(買い物や畑仕事・旅行等)のあるグループ(リハビリマネージメント加算Ⅱ算定)にはリハビリスタッフが直接現場に同行し、評価・目標達成の動作訓練を実施しました。

(2) 日中活動（アクティビティサービス）について

計算問題等や、手芸・折り紙といった項目を増やし、より多くのご利用者に取り組んで頂いた。又、男性のご利用者にも計算問題等はご好評頂いており、内容の向上等を行いながら継続して提供させて頂きました。問題が苦手な利用者については、編み物や折り紙・書道といった別を選択できるようにしました。JOYSOUND の映像や音を取り入れ、体操・機能訓練を中心としたレクリエーション・農作業や屋外歩行・陶芸教室を行い楽しんで頂くことが出来ました。

(3) 認知症ケアについて

計算問題等の机上問題や職員からの声かけによる外部刺激、午後のレクリエーションにて問題形式・JOYSOUND での映像や音と共に楽しむ要素を取り入れ、脳の活性化による認知症進行予防に取組みました。月々に行事担当者を設け季節に合わせた行事の立案を行い、おやつ作りや季節柄の行事・農作業や屋外歩行を取り入れ、草花等ご自身の目で季節を感じて頂きました。又、月始めの1週間は全ご利用者を対象に来所時に名前・昨日の夕食や今月の目標等をご自身で記入していただく記憶想起の取り組みを行いました。その他定期的に MMSE・HDS-R の認知機能のテストを実施し、担当者会議・リハビリ会議時に他事業所にも伝え連携を行いながら認知症ケアに努めました。

(4) 口腔・栄養管理について

加算としては算定していませんが、ご希望者及び、口腔内に残渣物が残るご利用者は歯ブラシ

等持参して頂き口腔ケアを実施しました。自立にて行えないご利用者については、職員が介助にて実施している。栄養管理、ご利用者の摂取状態の把握を行い、ご家族・他事業所と連携し、摂取量に応じて栄養補助食品等の提案を行い、ご本人・ご家族の意向に沿って栄養バランスが乱れないように努めました。又、管理栄養士・言語聴覚士と共に食事形態の設定後に他事業所に伝え、連携することにより可能な限り経口から栄養が摂取できるように環境設定を行いました。ご利用者の状態の観察を行い、変化に気づき、迅速に評価や検討を行い、ご利用者に負担にならないように努めました。

(5) 感染症対策について

委員会や定期会議にて、感染に対する研修・発表、インフルエンザやノロウイルスといった感染症に対しても時期を把握してマスクの着用・手指消毒の徹底・嘔吐物の処理セットを作成する等の対策をしました。今年度はインフルエンザの感染拡大も防ぐ事が出来ました。

(6) 事故抑止について

委員会に参加し、事故内容の共有及び対策方法の再確認を行うことにより、高い確率での再発防止が行えました。又、年度末には年間の統計を作成し、事故が多発している時間帯や事故内容を把握することにより、次年度の対策がより取りやすく職員間で注意点が共有できました。ハード面による事故も発生しており、次年度の課題として検討致します。

3. 行事の実施について

(1) 全体行事

- ・各月行事について、各担当者を配置し企画・運営。

[行事]

- 4月 花見
- 5月 端午の節句
- 7月 七夕行事
- 8月 夏祭り行事
- 9月 敬老会
- 10月 運動会
- 11月 芋掘り、文化祭
- 12月 忘年会、クリスマス会
- 2月 節分行事
- 3月 ひな祭り行事

- ・おやつ作り活動は季節感を味わいつつ、楽しみながら参加することが出来、季節行事、昔懐かしいお菓子を作ることで、生き生きした会話に繋がるように努めました。

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

- ・運営会議(1回/月)

管理者及び専門職の代表者による施設運営に関する会議

- ・ CS・ES 会議（1 回/月）

顧客満足・従業員満足に関する会議

- ・ デイケア運営会議（1 回/月）

上記会議での内容報告やデイケアでの行事やサービスの方向性を議論。ご利用者へのサービス課題点について解決策の検討。

- ・ 夕礼（毎日ご利用者送迎後）

当日のご利用者の身体状況、担当者会議・リハビリ会議等の報告、新規調査の報告等についてリハビリ職員を検討。（業務改善・情報共有・症例検討）

（2）研修

- ・ 感染症に係る研修（対象：全職員・年/2 回）：感染症予防及びまん延防止のため
- ・ コンプライアンス研修（対象：全職員・年/1 回）：法令遵守のため
- ・ 権利擁護（身体拘束・人権）に関する研修（対象：全職員・年/1 回）：ご利用者の権利擁護のため
- ・ 事故防止に係る研修（対象：全職員・年/2 回）：事故防止に向けての知識等の取得
- ・ グループ内研修（対象：全職員・随時）：職員全体のスキルアップ

（3）委員会

施設委員会である、行事・感染・事故防止委員会にそれぞれ担当者（通所リハビリ職員）が参加し、施設全体の検討課題の解決・対策に取り組んだ。

5. コストに関する取り組みについて

- ・ 身近である光熱水費や物品などのコスト管理については、ただ単に経費を削減するというだけでなく、限られた財源の中において、無駄を省くことや費用対効果を高めるという視点を持つことが必要であり、一方で業務の効率化による時間外勤務の削減など、目に見えにくい部分のコストについても、全職員が意識し少しでも無駄を減らすことを目標に取り組みました。
- ・ 職員の乱暴な取扱いや不注意などによる破損をなくし、使用や操作方法、周辺環境の確認を行った上で、破損理由などを分析・共有し再発予防に努めました。
- ・ 時間外勤務の削減のため時間外勤務の原因を分析し、業務を分担して行い時間外勤務を削減することが出来ました。

6. 事業の稼働について

年度末登録者数 99 名（予防 8 名・介護 91 名）、1 日平均人数 26.57 名・稼働率 66.43%。

7. 利用実績

(1) 利用者実績

		開所 日数	延べ 利用者数	平均 利用者数	登録者数（予防）		平均 介護度
					男性（予）	女性（予）	
					合計		
平成 30 年度	4月	30日	846人	28.2人/日	41(1)人	55(5)人	2.3
					96(6)人		
	5月	31日	921人	29.7人/日	41(2)人	57(4)人	2.5
					98(6)人		
	6月	30日	926人	30.8人/日	41(2)人	58(4)人	2.4
					99(6)人		
	7月	31日	828人	26.7人/日	38(2)人	55(5)人	2.3
					93(7)人		
	8月	31日	775人	25.0人/日	37(2)人	54(5)人	2.3
					91(7)人		
	9月	30日	741人	24.7人/日	37(2)人	55(5)人	2.2
					92(7)人		
	10月	31日	787人	25.3人/日	38(2)人	52(6)人	2.2
				90(8)人			
11月	30日	805人	26.8人/日	40(2)人	54(6)人	2.2	
				94(8)人			
12月	28日	764人	27.2人/日	43(2)人	51(7)人	2.2	
				94(9)人			
1月	28日	686人	24.5人/日	41(2)人	50(7)人	2.2	
				91(9)人			
2月	28日	685人	24.4人/日	41(1)人	49(7)人	2.1	
				90(8)人			
3月	31日	781人	25.1人/日	41(1)人	50(7)人	2.1	
				112(4)人			
年度 合計	合計 359 日	延べ 9545人	年間平均 26.57人/ 日	()人	()人	平均 2.2	

(2) 年齢別利用者数（平成30年度末現在）

	64歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	合計	平均年齢 (歳)
男	3	1	6	4	12	16	0	42	77.7
女	0	2	2	11	11	19	12	57	84.5
計	3	3	8	15	23	35	12	99	81.1
%	3.0%	3.0%	8.0%	15.15%	23.23%	35.35%	12.12%		—

(3) 介護度別世帯状況 (平成 30 年度末現在)

区分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援 1	0	1	1	0
要支援 2	1	1	0	4
要介護 1	5	7	8	9
要介護 2	3	16	6	15
要介護 3	1	2	1	6
要介護 4	0	3	1	4
要介護 5	0	1	0	3

(4) 利用者の生活状況 (平成 30 年度末現在)

食事	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	88	8	3	99	
移動	自立歩行	杖・補助器具	車椅子自走	全面介助	計
	20	65	6	8	99
入浴	自力・見守り	一部介助	全介助	計	
	68	21	10	99	
着脱	自力	一部介助	全介助	計	
	66	19	14	99	
排泄	自力	一部介助	全介助	計	
	72	18	9	99	
おむつ使用	常時使用	夜間使用	計		
	5	1	6		

(5) 年間の行事等 (平成 30 年度)

行事実施月及び行事名等	
4 月	花見・カーリング大会
5 月	母の日イベント・鯉のぼり・鯉のぼり飾り・デコレーションプリン作り
6 月	あじさいゼリー作り
7 月	七夕イベント・くずまんじゅう作り
8 月	夏祭り・すいか割り 慰問：沖縄三線
9 月	敬老の日イベント
10 月	運動会・さつまいも掘り・RUN伴
11 月	地域文化祭へ作品展示・さつまいも掘りゲーム
12 月	忘年会・クリスマス会 慰問：中部電力合唱団
1 月	蒸しパン作り
2 月	節分行事
3 月	ひな祭り・ひな人形飾り・お抹茶立て・おはぎ作り
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月 1 回陶芸教室…第四土曜日 ・ お誕生日会…随時 ・ 季節に合わせた作品作り…陶芸作品・折り紙を使用したの桜やひまわり作り等

平成30年度 社会福祉法人寿泉会
万葉の里訪問リハビリテーション事業実績報告書

1. 平成30年度の事業活動について

平成30年度は職員の配置状況により、都度、運営の判断をし適正な運営を行いました。

平成29年度と同様に美杉・白山地域、津・一志地域に概ねエリアを分けて、美杉・白山方面1台、津・一志方面1.5台(1台→1.5台)でサービスを展開しました。平成30年度はご利用者の入院が続いた為、実績の伸び悩みや終了に移行しにくく、退院等方向性が確定されるまで利用枠を確保することがありました。今後どの程度の期間を待機期間としていくか検討します。

美杉・白山地域に関しては平成29年度と同様に他サービス(通所事業等)の不足から訪問リハビリへの依頼も定期的であり、依頼のあった新規ご利用者様の受け入れがスムーズにいけるよう、既存のご利用者様の卒業や利用回数減少を見据えながらリハビリ目標をご本人、ご家族、ケアマネージャーと共有しました。

2. サービス提供について

(1) 機能訓練(リハビリテーション)について

平成29年度と同様にご利用者の身体機能に合わせて『活動と参加』を積極的に促す事を柱とし、今までの機能訓練(ベッドでの筋力強化やストレッチ)中心のリハビリから、畑作業や買い物練習、時間を調整しながら自宅から目的地までの移動手段の評価等を中心にするリハビリを進めました。それにより目標が具体的な設定としやすく、目標達成・未達成の判断が行いやすいただけでなく、訪問リハビリの卒業を提案しやすく、ご本人の理解を得やすくなりました。

(2) 日中活動(アクティビティサービス)について

なし

(3) 認知症ケアについて

なし

(4) 口腔・栄養管理について

言語聴覚士の配置が1名(常勤)となったが、老健業務・通所業務との兼務である為依頼があった場合に言語聴覚士単独での介入ではなく、理学療法士・作業療法士が中心に介入しピンポイントの嚥下評価としての対応を行っています。

(5) 感染症対策について

老健での対応と同じように、インフルエンザや風邪等の流行時期にはマスクを着用し、手洗いがいを奨励した。ご利用者毎にスプレーや綿を利用して手指消毒、血圧計等の機材消毒を行いました。ノロウイルス等嘔吐を伴う感染については、感染対策キットを作成して訪問公用車に積んでおり、利用者宅で嘔吐等があればキットを使用するよう周知しています。

(6) 事故抑止について

美杉・白山方面は移動距離が長く、過密なスケジュールは無理な運転をさせてしまう恐れが

あり、余裕を持たせたスケジュール管理を行いました。

3. 行事の実施について

(1) 施設全体行事

なし

(2) ユニット行事

なし

4. 会議・研修等の開催

(1) 会議

①リハビリテーションミーティング（毎月第1火曜日）

：万葉の里入所・デイ・訪問リハの業務改善や対応の難しい症例への検討会等
翌日開催のCS会議に出す議案確認

②津・一志・白山・美杉顔の見える会（毎月第2水曜日）

：近隣事業所が集まり情報交換や勉強会を開催

③津・久居地区地域医療福祉連携懇話会

：医療と福祉の施設連携を目的とした情報交換会や勉強会

④津市の訪問リハビリを考える会

：周辺訪問リハビリ事業所の情報交換や勉強会を開催

(2) 研修

各自県士会等参加

(3) 委員会

なし

5. コストに関する取り組みについて

平成30年度は入院による利用日の確保期間に迷い、結果、稼働に影響を与えてしまいました。今後は枠を空けておく期間の設定やケアマネージャーとの密に連絡をすることで次年度解消します。また、総合事業（訪問）等の期間が限定（3ヶ月）されているサービスをその枠に入れて対応するなどの臨機応変な対応が必要であると考えています。

6. 事業の稼働について

H30年度稼働車両2~2.5台、実績6575件（20分/回、最大算定可能件数7903件、平均稼働率83.2%）

7. 利用実績データ（訪問リハビリ）

（1）利用者実績

訪問リハ	稼働日数	登録者数 (予防)	延べ訪問件数	平均訪問件数 (件/日)	平均介護度
4月	21	52 (8)	550	26.2	2.2
5月	23	50 (5)	569	24.7	2.6
6月	21	52 (6)	519	24.7	2.5
7月	22	53 (6)	544	24.7	2.4
8月	23	52 (6)	579	25.2	2.4
9月	20	52 (6)	515	25.8	2.4
10月	23	50 (6)	591	25.7	2.2
11月	22	55 (8)	602	27.4	2.4
12月	21	55 (7)	554	26.4	2.4
1月	20	57 (7)	520	26.0	2.4
2月	20	55 (7)	510	25.5	2.3
3月	21	58 (7)	522	24.9	2.2
年間	257日	641名 (79名)	年間延べ件数 6575件	平均 25.6件/日	平均 2.4

（2）年齢別利用者数（平成30年度末現在）

	64歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	合計	平均年齢(歳)
男	1	1	5	4	5	6	3	25	79.3
女	1	0	6	5	5	12	4	33	81.7
計	2	1	11	9	10	18	7	58	80.5
%	3.4	1.7	19.0	15.5	17.2	31.0	12.1		

（3）介護度別世帯状況（平成30年度末現在）

区分	独居	日中独居	老々世帯	同居	施設等
要支援1	0	1	0	0	0
要支援2	2	0	4	0	0
要介護1	2	2	4	2	0
要介護2	3	1	3	3	1
要介護3	2	0	2	3	4
要介護4	0	1	4	0	1
要介護5	0	0	2	1	2

(4) ご契約状況等 (平成 30 年度)

契約理由		解約理由			継続中
		ADL 改善	入院	その他	
退院支援	6	3	1	0	12
認知症支援	0	0	0	0	0
看取り	0	0	0	0	0
ADL 低下	33	19	9	1	46
合計	39	22	10	1	58

* 30 年度新規契約 39 件、終了 33 件 (以前より利用している利用者含む)

(5) 年間の研修・会議開催状況 (平成 30 年度)

実施月及び研修・会議等	
4 月	リハビリミーティング、地域交流会、津市の訪問リハビリを考える会
5 月	リハビリミーティング、顔の見える会、地域医療福祉連携懇話会、他職種連携研修会
6 月	リハビリミーティング、顔の見える会
7 月	リハビリミーティング、顔の見える会、津市の訪問リハビリを考える会
8 月	リハビリミーティング、顔の見える会
9 月	リハビリミーティング、顔の見える会、津市の訪問リハビリを考える会
10 月	リハビリミーティング、顔の見える会
11 月	リハビリミーティング、顔の見える会、津市の訪問リハビリを考える会
12 月	リハビリミーティング、顔の見える会
1 月	リハビリミーティング、顔の見える会
2 月	リハビリミーティング、顔の見える会、津市の訪問リハビリを考える会
3 月	リハビリミーティング、顔の見える会

平成30年度 寿泉会
万葉の里居宅介護支援事業所事業実績報告書

1. 平成30年度の事業活動について

・地域包括支援センター、医療機関、行政等への営業活動を図りながら、利用者確保に努めたことで、要介護者の利用者数については目標に対して順調に推移した。介護予防についても、地域交流会等を通してPRしたが利用者数の増加は見込めなかった。今後も一人ひとりの利用者を大切に支援することで、地域からの信頼を今迄以上に構築し、利用者紹介へ繋げていく。

2. サービス提供について

(1) 感染症対策について

- ・手洗い消毒の徹底。
- ・入所施設・事業所訪問時必要に応じてマスクの着用。
- ・感染症予防対策等の研修会への参加。

(2) 事故抑止について

- ・利用者宅、事業所等への訪問の際は、余裕をもって安全運転に努めた。
- ・乗車前のタイヤ、車両周辺キズ等の自主点検。
- ・エンジン異音他異常に気付いたら、車両担当者への速やかな報告。

3. 会議・研修等の開催

(1) 会議

- ・津地区医療・福祉地域連合会開催の多職種連携検討会

(2) 研修

- ・万葉の里居宅介護支援事業所主催の地域住民/理学療法士等の勉強会及び交流会
- ・津一志地区包括支援センター・三重県立一志病院主催の研修会及び交流会
- ・介護支援専門員協会や社会福祉協議会、三重県、病院、各種団体が主催する認知症疾患、高齢者虐待、制度改正、地域支援事業、ケアマネジメント等に関する研修

4. コストに関する取り組みについて

- ・訪問の際は、ガソリン代節約を意識し、同地域を出来るだけ同日に訪問しました。
- ・職員の乱暴な取扱いや不注意等による破損をなくし、使用や操作方法、周辺環境の確認を行ったうえで、破損理由等を分析・共有し再発予防に努めました。
- ・消耗品等の使用については、適正な使用を心掛けるとともに、在庫管理を適切に行い無駄の無いようにしました。
- ・時間外勤務の削減の為、時間外勤務の原因を分析し、業務の見直し等を図りました。

6. 事業の稼働について

- ・地域包括支援センター、病院医療相談室を訪問し新規利用者の確保に努めると共に、地域住民との勉強会及び交流会を開催し、地域との繋がりを構築する。また、グループ内事業所と更なる連携を図り、相談窓口となり相乗効果をもたらすように努めました。

7. 利用実績

(1) 利用者実績

区分	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	人数 (%)	前年比 (%)	
予 防	支援1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	4	0.5	100	
	支援2	1	2	2	3	3	2	2	2	2	2	2	2	102	11.4	143	
介 護	介護1	19	20	19	18	14	17	18	18	16	16	16	17	208	23.0	96	
	介護2	21	23	22	24	26	28	31	28	30	28	28	25	314	38.5	107	
	介護3	14	11	14	12	11	11	11	11	11	10	7	7	130	15.1	89	
	介護4	3	3	4	6	5	4	4	4	4	4	7	5	6	55	7.2	71
	介護5	4	4	4	4	3	4	4	4	4	5	5	4	4	49	4.3	79
合 計		61	61	63	64	59	64	68	65	66	66	60	59	756	100	86.9	

(2) 年齢別利用者数（平成30年度末現在）

	64歳以下	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	合計	平均年齢 (歳)
男	0	0	1	1	2	4	2	10	85.4
女	0	1	4	5	4	8	5	27	82.3
計	0	1	5	6	6	12	7	37	83.0
%	0	2.7	13.5	16.2	16.2	32.5	18.9	100	

(3) 介護度別世帯状況（平成30年度末現在）

区 分	独居	老々世帯	日中独居	家族同居世帯
要支援1	1	0	0	0
要支援2	2	0	0	0
要介護1	5	4	2	1
要介護2	5	3	4	2
要介護3	0	1	2	1
要介護4	0	2	1	0
要介護5	0	0	1	0

(4) ご契約状況等（平成30年度）

契約理由		解約理由			継続中
		ADL改善	入院	その他	
退院支援	6				
認知症支援	3				
看取り	0				
合計	9				

(5) 年間の研修・会議開催状況（平成30年度）

実施月及び研修・会議等	
4月	一志地域事業所交流会
5月	「2018年介護報酬改定の概要」
6月	リハビリ用語の基礎知識
7月	30年改正とケアマネジャーの質
8月	第5回美杉・白山・一志在宅ケア みんなで考える集い
9月	平成30年度 地域ケア会議 一志地区
10月	脳卒中予防、脳卒中リハビリ、地域連携について
11月	会議の進め方とコミュニケーション
12月	SOAPで記録を書くということ
1月	小規模ケア研究会 認知症の方のサインの出し方について
2月	地域包括推進研修 多職種連携研修「ケースメソッドとは」
3月	臨床検査データの読み方 ～基準範囲と健診時のスクリーニング検査を中心に～